



一人ではどうにもできない貧困、  
だから一緒にかえていく。

We walk together toward the world without poverty.

アクセス  
年次報告書  
2015-2016

# アクセスとは

アクセスは、フィリピンと日本で

貧困問題の解決に向けて活動する、京都生まれの国際協力 NGO です。

フィリピンの貧しい人々も、日本で暮らす人々も、ともに地球市民として

「貧困をはじめとする社会的な課題を、一人ひとりが主体となって解決し、

より良い社会を創っていく」ことをめざしています。

*Aspiring Citizens for Community Empowerment with Sunny Smile*

## Contents

目次

<b>  5分で知るアクセスとフィリピン</b>	<b>  2016 年度事業計画</b> …………… 24
アクセスのミッション／フィリピン事業概要…………… 3	
アクセスの組織図…………… 4	<b>  私たちのめざすもの</b>
統計から見るフィリピンの現状…………… 5	「誰も犠牲にしない豊かな社会」をめざして…………… 26
2015 年度 活動ハイライト…………… 6	私たちの活動の柱(要約版)…………… 27
2016 年度、ご参加、ご協力いただきたい活動…………… 9	エンパワメントと組織化…………… 28
<b>  2015 年度事業報告</b>	
アクセス総評…………… 10	役員・スタッフ・ボランティアスタッフ…………… 30
フィリピン事業報告 …………… 12	会員・寄付者／ご支援いただいた助成団体…………… 32
コミュニティ・エンパワメントの現状と課題…………… 15	ご協力いただいた企業・学校・団体等／受賞歴／
日本事業報告…………… 16	加盟団体・ネットワーク …………… 33
<b>  2015 年度決算報告</b> …………… 21	アクセスのあゆみ 1988-2016 …………… 34

### 年次報告書をお読みいただく皆さまへ

アクセスの活動にご参加・ご協力をいただいている皆さまに、これまでの活動の成果をご報告すると同時に、これからの活動の展望や計画を具体的にお伝えすることを目的に、本報告書を作成いたしました。お読みいただく全ての皆さまに、アクセスの活動の成果や課題をご理解いただければと願っています。

「私たちのめざすもの」(P26～29)では、アクセスが何をめざして活動をすすめているのかということを明らかにしようと試みました。活動の背景にある私たちの想いや考えについて、ご意見・ご感想をお聞かせいただけると幸いです。

# アクセスのミッション

アクセスの

3つのミッション(使命)

どれか1つかけても

貧困をなくすことはできない、

と考えています

貧困の痛みを  
和らげる

教育・生計支援  
人権擁護

貧困の原因を  
明らかにしながら  
貧困をなくそう  
とする人を  
増やす

協力できる  
場を提供する

\*アクセスのミッションの詳細は、P26～29 をご覧ください。

## フィリピン事業概要



### ■ピナツボ

1991年に起こったピナツボ火山噴火の被災地区。特に土石流堆積の被害が大きかったバンパンガ州ポーラック町ミトラで、教育を中心としたコミュニティ復興事業を進めています。



### ■ペレーズ

小さな島の一面にある、貧しい農漁村地区ペレーズ。農業と漁業で生計を立てる人々が大半を占めています。ここでは1999年より、教育支援、フェアトレード、青年育成、マイクロファイナンスなどの活動を行っています。



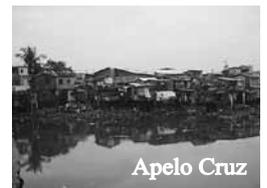
### ■パヤタス

マニラ首都圏から出るゴミの集積所の1つであるパヤタスで、1994年に幼稚園を建設。2013年より、その運営支援を行っています。



### ■アペロクルス

マニラ首都圏内にある川沿いのスラムの1つであるアペロクルスでは、1997年より、教育支援を行っています。



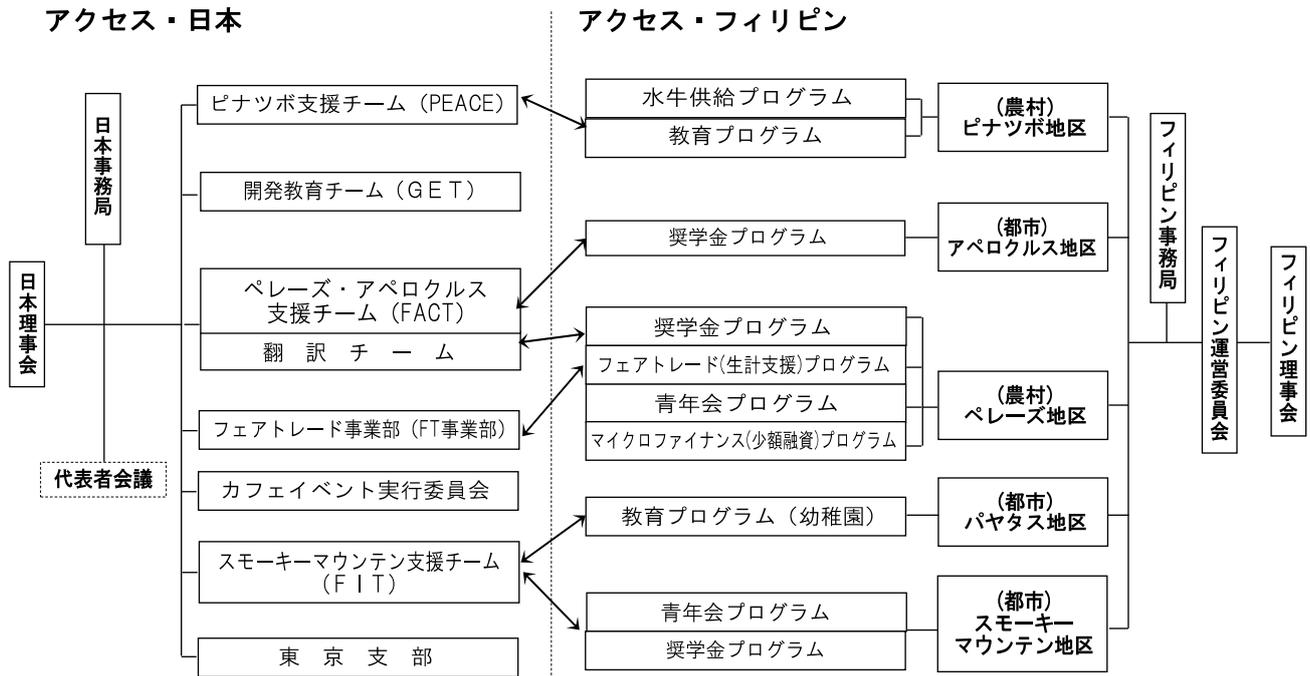
### ■トンド

マニラでも名の知れた貧困地区トンド。首都圏から出るゴミの集積場であるスモーキーマウンテンは、このトンド地区内にあります。ここでの活動は2005年から始まり、現在は地区内の若者や子どもたちを対象とした教育支援事業を行っています。



# アクセスの組織図

2016年3月時点



\*アクセス・日本とアクセス・フィリピンは、それぞれの国に理事会をもち、それぞれ法人格を持っていますが、実質的には2つで1つの国際協力NGOです。2009年度からは国際理事会を設置し、単一のNGOとして意思決定を行っています。

\*2016年3月末をもって、FACTチームは活動休止となりました。

## ボランティアが活躍するアクセス



アクセスで定期的に活動するボランティアは、約70人！

そのほとんどが、「チーム」に所属しています。

**チームメンバー**は、アクセスの活動目的に沿って、

自分たちの活動を一から話し合い、計画し、実行します。

事務局は必要な時だけ、チームの活動をサポートします。

**メンバーの主体性を重んじる**からこそ生まれる

活気が、アクセスの魅力の1つかもしれません。

\*各チームの活動報告は、P16～19に掲載しています。所属スタッフの一覧はP31をご覧ください。

\*ボランティア情報メールへの登録者は422人です。

### 【わたしたちがロゴに込めた想い】

「みんなで考え、話し合うことを通じて、活動を創っていく。」ふきだしは、そんなアクセスのスタイルを表現しています。

「活動を通じて支えあう関係をつくりだし、その中で笑顔をつくりだしていきたい。」

そんな願いを込めて、ふきだしがこっぴり笑っているようなデザインになりました。

designed by musubi design



## 統計から見る、 フィリピンの現状

### 4人に1人が貧困層

経済成長率の高さが注目されるフィリピンですが、一人当たりGDP(国内総生産<sup>※1</sup>)は日本の約5分の1。日本をはじめとする「北」の国との格差は、縮まっていません。

フィリピン政府は、「5人家族が最低限必要とする生活費は月額9,140ペソ(日本円で約22,800円/1日1人あたり152円)」としており、この基準を下回る貧困層は、2015年度上半期で26.3%(前年同期25.8%)<sup>(データ1)</sup>と発表しています。世界銀行によると、2012年に1日2ドル以下で暮らす人々は41.7%<sup>(データ2)</sup>にも上るとも言われています。国の経済が成長する一方で、その豊かさは底辺まで行き届いておらず、貧困層の割合・絶対数ともに増加しているのが現実です。

※1:国内で、1年間に生みだされた生産物やサービスの金額の総和のこと

### 子どもの就学状況

フィリピンの初等教育における純就学率<sup>※2</sup>は、2013年の統計で96%でした<sup>(データ3)</sup>。しかしながら、小学校に入学した児童のうち、卒業できるのは74%にすぎません<sup>(データ4)</sup>。

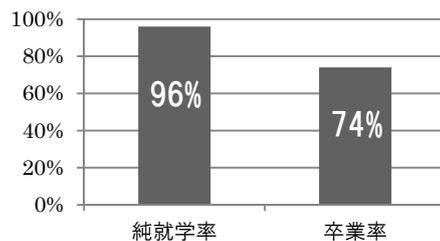
小学校教育に授業料はかかりませんが、学校の設備や教材などが不足していたり、制服や学用品が買えない、家計を支えるために働かなければならないといった理由で、中退者が後を絶ちません。

10人に3人が

小学校を卒業できない、フィリピン。

その現状を、統計データを見ながら紹介します。

初等教育純就学率と卒業率(2013年)



※2:一定の教育レベルにおいて、教育を受けるべき年齢の人口総数に対し、実際に教育を受けている(その年齢グループに属する)人の割合。

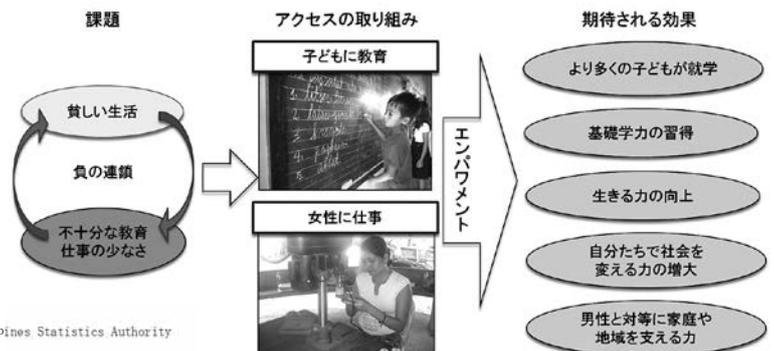
### 女性が活躍する国というイメージの一方で

フィリピンの管理職における女性の比率は世界でも4番目に高いと言われ<sup>(データ5)</sup>、「女性が活躍する国」というイメージがあるかもしれませんが、2014年の雇用率<sup>※3</sup>は、男性78.6%、女性50.7%と、女性の方が27.9ポイントも下回っています<sup>(データ6)</sup>。

その背景には、貧困層において今も根強く残る、性的役割分業の意識があります。特に農漁村では、「男性は農業や漁業で収入を稼ぎ、女性は家事・育児をする」ことが一般的で、職業の選択肢が限られていることもあり、女性が仕事につくことは簡単ではありません。貧困層の女性ほど経済的に男性に依存せざるを得ず、子どもの暮らしを守るため、家庭でも地域でも、自分の意見や考えを押し殺して生きる女性が少なくありません。

※3:15歳以上の働くことができる人々のうち、雇用されている人の割合

アクセスはこうした現状に対し、「子どもに教育」、「女性に仕事」を提供することで、女性や子どものエンパワメントをすすめています。



【データ出典】  
 データ1 : "2015 First Semester Official Poverty Statistics - Press Release" Philippines Statistics Authority  
 データ2 : Poverty headcount ratio at \$2 a day (PPP) (% of population) World Bank  
 データ3 : EdStats World Bank  
 データ4 : "Education in the Philippines" World Education News & Reviews  
 データ5 : "Women in Business and Management Gaining Momentum Global Report" ILO  
 データ6 : "Key Indicators for Asia and the Pacific 2015 Philippines" Asian Development Bank

\*エンパワメントの具体的な内容については、P27-29をご覧ください。

# 2015年度活動ハイライト



新しい文房具を受け取った子どもたち

## アクセスは2015年度、 482人の子どもたちの 就学を支援しました

### 小学校就学率 100%を達成！

皆さまのご協力のもと支援対象を広げてきた奨学金プログラム、2015年度は220名もの子どもたちの就学をサポートすることができました。経済的な理由で学校に通い続けることが難しい子どもの小学校就学をサポートする事業で、学校に納める費用、学用品、給食などを提供するほか、週末には補習授業や奨学生会を行いました。ペレーズ地区のピリヤマンサノ・スル村では、小学校就学率が100%に達していることがわかり、事業の成果を実感した1年となりました。

子どもの権利侵害を減らすために2011年からペレーズ地区でスタートした「子どもに優しいコミュニティづくり」も順調に進んでいます。子どもへの体罰は当たり前のことと考えられているフィリピンで、子どもの権利や、子育ての仕方、子どもに関わる法律について学ぶ連続セミナーを開催し、子どもたち・保護者・地域の人々の意識や行動を変えていくという事業です。4年間取り組みを続けたペレーズ地区ピリヤマンサノ・スル村では、子どもへの体罰は滅多に見られなくなり、子どもに声を荒げる保護者も少なくなりました。

#### ■ 奨学金プログラム 220名

前年度比+59名、P12に関連記事

#### ■ 小学校運営支援 104名

前年度比-14名

#### ■ 幼稚園運営 72名

前年度比-5名、P13に関連記事

この取り組みを、2015年度からはピナツボ地区でも実施しています。ピナツボ火山噴火による被災から24年、ようやく教育面での復興がすすみ、小学校6年生まで学べる環境が整ってきました。そこで、次のステップとして、子どもたちを取り巻く大人たちの意識を変え、子どもの権利がより広い意味で守られるコミュニティづくりに取り組んでいこうとしています。

2015年度は、PTAや村議員を対象に、「子どもの発達段階」「子どもへの接し方」といったピックで啓発セミナーを5回開催したほか、子どもにやさしいコミュニティづくりの先進地域を訪問する研修旅行も実施しました。

2016年度はPTA役員のリーダーシップ研修を行うと共に、「生存」「発達」「保護」「参加」の4つのテーマにそって子どもたちの直面している問題の解決に向けて、保護者や地域の人々自らが行動できるよう働きかけていく計画です。

(P12に関連記事)

2015年度は、512名の就学を支援します！



## 試行錯誤を続けた、女性や若者の仕事づくり

### 達成率 53% フェアトレード事業の苦闘

事業規模の拡大をめざして策定した「ペレーズ地区フェアトレード事業 3 年計画」。2015 年度はその 3 年目でした。2013 年度に開始したグリーティングカード事業の生産能力を強化し、ココナツ殻製品とあわせて、大きく売り上げを伸ばすことをめざしました。しかし、パートタイム職員とボランティアのみの体制で、経験のない中での営業活動に苦戦。売上は当初の目標の 181 万円に対し、95 万円に止まりました。

フィリピン側では、これまでで最大の 4000 枚規模のカードの受注・生産を経験し、現地スタッフおよび生産者の能力が向上するとともに、今後に向けての課題も明らかになりました。並行して、フィリピン国内・欧米での販路の拡大も目標にしていたが、こちらは思うように取り組むことができなかったため、2016 年度の課題として持ち越すこととなりました。(P14、P15、P16に関連記事)

### 70 人の女性に融資 マイクロファイナンス

2010 年から取り組んでいるマイクロファイナンス(少額融資)については、養豚や雑貨店経営などの小規模事業を行うための資金を、70 人に融資しました。

2014 年度に明らかになった返済率やミーティング出席率の低下をなんとか改善しようと、担当スタッフが立て直し計画

を作成。時間をかけて利用者一人ひとりと話し、粘り強く働きかけました。しかし、一部のメンバーを除いて、返済はなかなか進みませんでした。(P15に関連記事)

### 若者たち 60 名の居場所づくりと非行防止

13 歳以上の若者が、互いに支え合いながら成長していく場となっているのが青年会プログラムです。2015 年度はペレーズ地区(農漁村)と、トンド地区(都市スラム)の 2 か所で、約 60 名が参加しました。

ペレーズでは、ダンスの練習、地域の子どもたちに勉強を教える活動、勉強会を実施しました。トンドでは、ダンス・演劇の練習、ラップソング作り、地域でのゴミ拾いなどに取り組みました。こうした活動は、若者たちの居場所となっていると同時に、自尊心を育む場ともなっています。(P13に関連記事)



トンド地区の青年会メンバーを対象とした発声練習の様子

## 2015年度活動ハイライト

### 貧困問題に触れ、感じ、語り合う

スタディツアーに76人、カフェイベントに48人が参加



スタディツアーでお世話になった家族と

出  
会  
い

貧困の中でもがき苦しみ、努力し、生き抜いている人々と出会うフィリピン・スタディツアーと、そうした現実を日本でリアルに感じてもらうためのカフェイベントを、年間を通して開催しました。

ツアーやイベントは、貧困の現状を理解してもらう場であると同時に、「よりよい世界、社会を創りたい」と願う人々が出会う場でもあります。ツアーでは、物質的な豊かさと精神的な豊かさについてなど、たくさんの興味深いテーマで深く語り合いました。イベントは、翻訳体験などのワークショップやトークライブなど、さまざまな切り口で開催し、貧困をなくすために何ができるのかを考えました。こうした取組みの結果、ボランティアやサポーターとしてフィリピンを応援する「一歩」を踏み出す人を増やすことができました。

### 930人以上が活動に参加

古本・CD・書き損じハガキなどの寄付、会員・サポーターとして協力、ボランティアとして活動など、参加が広がりました

参  
加

ココロ便(中古の本・CD・DVD・ゲームの寄付)	82件
書き損じハガキ	60件
会員・サポーター	727人
ボランティアスタッフ	約70人

(P31のスタッフリスト、P33の協力団体リストもご参照ください。)



2月に開催した、現地インターン帰国報告会にご参加くださった皆さんと

### 企業、学校、労働組合、カフェなどとの連携、

#### ➤ クリックだけで寄付になる、gooddo

gooddo 株式会社のご協力により、クリックやお買いものをするだけで寄付になる仕組みを導入しました

協  
力  
・  
連  
携

#### ➤ 寄付つき商品「ココファンドリップ」の売上で、十代の若者をフィリピンへ



フィリピン産ココナッツオイルで作られたリップクリーム(写真)の売上金を積み立て、不登校・中退経験・貧困などの「しんどさ」を抱えた日本の高校生をフィリピンのスタディツアーに送り出す「ココファンドリップ・プロジェクト」に協力。選考を経た十代の若者2名に、アクセスのスタディツアーに参加していただきました。

この他にも、企業、学校、カフェ、奉仕団体、NPO、寺院などからも、さまざまなご協力をいただきました。

ご協力いただいたグループ・企業等の一覧を、P33に掲載しています。

# 2016年度、 ご参加、ご協力いただきたい活動

アクセスでは、フィリピンの4つの事業地でさまざまな支援事業を行い、日本でも多くのイベント・企画を行っています。その中でも、2016年度特に力を入れて取り組んでいきたい活動、多くの方にご協力いただきたい活動を、ポイントを絞ってご紹介します。ぜひ、ご協力ください。

また、これ以外にも、お力を貸していただける場合には、ぜひアクセス事務局までご連絡ください。

## 関西各地で イベントを企画中！

京都を飛び出して、  
あなたの地域にも  
出掛けていきます。

## 2016年は、近畿の各府県に 飛び出します！

奈良、滋賀、兵庫、大阪の順に、各府県の会員・サポーターの皆さまと一緒に、イベントを開催していきたいと考えています。会場手配や広報、当日お手伝いなどにご協力いただける方は、ぜひご連絡ください。近畿外でも開催したい！という方は、ぜひ一度、ご相談ください。

in 奈良  
フィリピンの子どもと  
NGOアクセス  
~35才女性事務局長の奮闘ストーリー~

日時 2016年 7月23日(土) 13:30-16:00

場所 奈良商工会議所 3会議室  
〒630-8596 奈良県生駒郡春日原町3-2-1  
奈良商工会議所3会議室(1階)303号室

◆プログラム  
・アイスブレイク  
・トークライブ  
『フィリピンの子どもとNGOアクセス』  
野田 節枝 (NPO法人アクセス 事務局長)  
～お話を～

◆参加費 800円 (スイーツ・ドリンク付)

◆定員 18名

講師 野田 節枝 さん  
NPO法人アクセス 事務局長  
2008年、フィリピンで活動開始。2010年、NPO法人として設立。2011年、NPO法人として認定。2012年、NPO法人として認定。2013年、NPO法人として認定。2014年、NPO法人として認定。2015年、NPO法人として認定。2016年、NPO法人として認定。

主催 奈良県 NPO法人アクセス 事務局  
TEL:075-643-7232 Mail: acce@sannet.ne.jp

## 認定NPO法人になりました。

2016年8月10日以降、アクセスへのご寄付・サポーター費は、税制優遇の対象となります。

個人が認定NPO法人に寄付した場合

▶ 寄付金控除が受けられます。

法人が認定NPO法人に寄付した場合

▶ 損金に算入できる金額が拡大されます。

相続人が認定NPO法人に相続財産を寄付した場合

▶ 寄付をした相続財産は相続税が非課税になります。

税額控除の内容や、手続きなどの詳細については、事務局までお問い合わせください。(担当:森脇)

中古の本、CD、DVD、  
書き損じハガキ、  
大きな力になっています。



書き損じハガキ1枚で、  
子どもに栄養バランスのとれた給食を  
1食届けることができます。  
今年度も皆さまのご協力をどうぞよろしく  
お願いいたします。

**access**  
市民のネットワークが貧困のない社会を創る

【お問合せ・ご相談】

TEL/FAX 075-643-7232 Eメール acce@sannet.ne.jp

## アクセス総評

### 全体の事業量のコントロールと スタッフの育成

2015年度、フィリピン側では全般的に事業計画に沿って取り組みを進めることができ、支援を届けることができた子どもたち・女性の数も過去最多となりました。そうした成果を日本に伝える報告書や写真、会計報告も、適切なタイミングで届くようになっています。5年度ほど前と比べると大きな改善であり、こうした組織文化をしっかりと根付かせていきたいと考えています。

他方、一つ一つのプログラムを事業計画にそって運営することで精一杯で、振り返りやフィードバックが不十分となりがちでした。何をめざして活動しているのか、今どこまで達成できているのか、立ち位置を見失ってしまう傾向も現れ、スタッフの過負荷感も強まりました。

主な原因は次のものです。

- 組織の規模に比して事業の数が多
- 組織の力量に比して取り組んでいる事業の難易度が高い
- 若手職員を指導・育成できる管理職が不足している
- 以上のような組織状況の中で、新規事業を2つ同時にスタートした(ピナツボ地区「子どもに優しいコミュニティづくり」、トンド地区「奨学金プログラム」)。

一つ一つのプログラムは事業計画に則って実施することもでき、全体の力量の見極めが上手いかなかったと言えます。加えてスタッフの退職・入職もあり、「とにかく計画をこなすのに精いっぱい」となっていました。

2016年度は、自分たちの力量をより正確に把握し、「エンパワメント」という観点から成果を出せるような事業計画を作ることが課題となります。忙しさの中でもスタッフが疲弊してしまうことを避け、「子どもたち、女性たちの変化を実感できた。やっぱりこの仕事は遣り甲斐がある。」と感じられるような活動にしてい

が必要です。

同時に、中堅職員を育ててリーダーのポジションの世代交代の準備を進めること、とりわけ事務局長を補佐することのできる経験を積んだスタッフを新たに採用し指導力を強化することも、最重要の課題となっています。

### フィリピンでの成果： 子どもに優しいコミュニティづくりの進展

ペレーズ地区(ケソン州アラバット島)では、2010年から奨学金プログラムの保護者会・奨学生会が主体となって、子どもに優しいコミュニティづくりを進めてきました。子どもの権利に関するセミナーを重ね、住民の意識向上に努めるとともに、村議会の機関である「子どもの保護に関する住民評議会(BCPC)」に働きかけ、子どもの権利と福祉に関する村の行政を前進させてきたのです。2015年度は、保護者会・奨学生会の中に子どもの権利に関する4つの委員会(生存・発達・保護・参加)が設置され、マニラ首都圏のBCPCの先進事例を持つバラングイ(村)との共同フォーラム「BCPCの強化プロセス」を開催して、二つのバラングイの経験交流に取り組みました。また、BCPCとの定例協議(年4回)を行い、子どもの状況や取り組むべき施策についての意見交換の場をもつことができました。

これらの取り組みの結果として、毎月最終木曜日に村議会と4つの委員会との定期協議を実施するという決議が村議会で採択されるに至っています。

今後は、この定期協議を継続して実施し、BCPCの内実を作っていくとともに、子どもや女性の権利の擁護を具体的な施策として実施していくために他の政府機関やNGOとの連携を強化していくことが課題となっています。

### ■ビジョン(展望)

私たちの夢は、次のような社会を築くことです。

- ✓ 人々が互いに多様性を受け入れ協調して生きられる社会
- ✓ 人々が自然環境と調和して暮らす社会
- ✓ 土地とすべての生産資源に誰もが平等にアクセスすることのできる社会
- ✓ 人々が社会関係を創造・発展させる自由、自分たちが責任を持って統治する自由を享受する社会
- ✓ 人権・尊厳・創造性が尊重される社会
- ✓ 人々、特に子どもたちが健康に、家族や社会の中で生きづらさを感じることなく生きられる社会
- ✓ 国境がなく、誰もが自由を大切にできる社会

### ■ミッション(使命)

私たちは、アジア、とりわけフィリピンの貧しい人々の困窮状態に突き動かされ、また人としての義務感に鼓舞されて、国際連帯の推進、すなわち貧困・人権侵害・戦争と平和の諸問題に国境を越えて共同で取り組むことを通じて、貧しい人々・収奪された人々・抑圧された人々の集団的エンパワメントに献身します。

### ■ゴール(目標)

私たちは都市と農村の窮乏したコミュニティにおいて、住民のニーズに応じたプログラムを複合的に実施することを通じて、住民が民主的に運営する組織を建設し、国際的・国内的なネットワークを形成することをめざします。

## アクセス・フィリピンの ビジョン・ミッション・ゴール

### ■戦略

私たちは、これらのビジョン・ミッション・ゴールの達成のために、貧困の中で生きる人々自身による草の根の住民組織を組織すると同時に、日本人とフィリピン人の中産層や専門家たち(学位保持者や大学卒である必要はない)に働きかけ、私たちが関わっている都市および農村の貧しいコミュニティのニーズに対応した複合的なプログラムに参加する人々のネットワークを広げます。

また、こうした取り組みが安定的に行えるよう、責任ある組織の管理・運営を実現します。

ピナツボ地区(バンパンガ州火山被災地)でも、2007 年から教育支援を開始し、以来幼稚園の開校、小学校校舎の建設、給食の提供など地域の教育復興を支援してきましたが、2015 年度からは、ペレーズでの経験に基づき、幼稚園・小学校の PTA と共に子どもに優しいコミュニティづくりの取り組みを始めました。

また、トンド地区(マニラ首都圏マニラ市)で新たに奨学金プログラムを開始し、20 名の小学生の就学を支援することができました。

## フィリピンでの課題：生計支援プログラムの課題

ペレーズ地区では、手作りグリーティングカードおよびココナツ殻製品の生産事業を実施しています。2015 年度はグリーティングカード生産において初めて 4000 枚単位の受注・生産を経験し、多くのロスが発生させるなど問題も発生しましたが、一サイクルをやり遂げることができ、生産過程の課題が明確になりました。今後の主要な課題は日本での売上加え、フィリピンや欧米の市場へのアプローチを通じて販路を拡大することです。

他方、マイクロファイナンスプログラムは、返済が滞っているメンバーとの間で、返済しやすい条件で返済してもらうために債務繰り延べに関する話し合いを行い、粘り強く働きかけましたが、返済するメンバーの数を増やすことは余りできませんでした。今後は、返済を続けてくれているメンバー15 名を対象とした事業へと、一端、事業規模を縮小することになります。

こうした生計支援事業はビジネス性が高く、担当スタッフにはそれに応じた知識とスキルが求められますが、現状のアクセス・

フィリピンにはそうしたビジネス系プログラムに対応できるスタッフが少ないのが現状です。今後は、マイクロファイナンスを縮小することで、人員をフェアトレードに投入し、フェアトレード事業に重点を移し事業の拡大をめざす中で、ビジネス系プログラムに対応できる人材を育てていくことになります。

## 日本側の課題

会員・サポーターの増加に向けた取り組みは、過去数年に比べても多くの時間をかけて取り組みましたが、成果が出ませんでした。入会者数が伸び悩むと同時に、退会者数が前年度の 1.4 倍にのぼり、会員口数では 23 口の純増に止まりました。入会者を増やす取り組みの見直しに加え、退会者が増えた理由や、退会の理由などについての分析・対策が必要になっています。

地球市民教育の一環であり、また潜在的会員・支援者となっていく場として、2015 年度はカフェイベントを 4 回実施し、48 名の参加を得ることができました。「応援したい」と思っていたるように、伝える内容の工夫を試み、ボランティアやインターンの意見を活かしながら改善を積み重ね、イベントから 6 名の方にボランティアに参加いただけましたが、入会していただいたのは 1 名だけでした。開催方法や内容をさらに工夫し、もう 1 年重点事業として取り組みます。

フェアトレードは、2016 年度は勝負の年になります。専従職員を配置してグリーティングカードの販売において大規模店への営業を強化し、2 店の新規取引/4,700 枚の売り上げを目標として、取り組みます。



## 株式会社ドロキア・オラシイタ × アクセス

2014 年からのパヤタス地区の子どもたちの給食支援に加え、2015 年後半より、トンド地区で 20 名の子どもたちを対象とした、奨学金プログラムもスタートさせることができました！これは、「焼きたてチーズタルト専門店 PABLO」を運営する株式会社ドロキア・オラシイタからのご協力によるものです。

「PABLO 出店のために訪れたフィリピンで、チーズタルトを買える富裕層の裏に、食事もままならない貧困層が沢山いるのだと実感しました。」と話す、社長の寄本将光さん。2016 年度も、パヤタス地区・トンド地区の子どもたちの給食と教育支援にご協力いただきます。



奨学金の提供  
幼稚園運営  
青年会

### 奨学金プログラム

### ペレーズ地区／アペロクルス地区／トンド地区



## 220 人の小学校就学を支援

#### 【事業地】

ケソン州アラバット島ペレーズ町  
マニラ首都圏パサイ市アペロクルス  
マニラ首都圏マニラ市トンド

### ビリヤマンサノ・スル村、就学率 100%に

2015 年度は、奨学金を 7 年間続けてきたペレーズ地区ビリヤマンサノ・スル村で全戸調査を実施。その結果、小学校就学率が 100%になっていることがわかりました。

### 21 人が小学校を卒業

2016 年 3 月には、アクセスの奨学生 21 人が小学校を卒業することができました。奨学金がなければ、小学校すら卒業が難しかったであろう子どもたちの姿を、親たちは笑顔で見守っていました。

フィリピンでは 9 割以上の子どもたちが小学校に入学しますが、入学した子どもの 10 人に 3 人は、経済的な理由などで退学してしまいます。自分に自信を持ってないまま、苦勞の多い人生を歩むことになる子どもを一人でも減らしたいと願い、奨学金プログラムを続けています。

### 保護者の力を活かして

2015 年度も、制服や靴、カバン、文房具、学用品等を 6 月の新学期に間に合うように配布しました。授業が始まって以降は、保護者に調理をお願いし、給食を提供。土曜日には、地域の若者たちの協力を得て補習授業を実施し、学習内容の定着をはかりました。

保護者会・奨学生会の能力強化のためのセミナーも、奨学金プログラムの重要な一部です。保護者を対象に、

子どもの成長を促す接し方などの身近な話題から、子どもを虐待等から守るための法律に至るまで、子どもの保護に関するあらゆるテーマでのセミナーを開催しました。また、子どもたちに子どもの権利について学んでもらう場も設けました。

ペレーズ地区の中でも、最もアクセスの奨学生が多いビリヤマンサノ・スル村では、保護者と村議会が協働し、「子どもに優しいコミュニティづくり」の活動が進んでいます。地域全体で子どもたちを守り育てていこうとする人々のチャレンジについては、P10 に詳しくまとめています。

### 出席率の改善に向けて

ペレーズでは、給食当番の出席率の低さが課題でした。保護者会で対策が話し合われた結果、調理を無断で欠席した保護者は 50 ペソの罰金が課されること、うち 30 ペソは代理で調理を担った人への謝礼に、残り 20 ペソは給食費の一部にするということが決まりました。

補習授業の出席率の低さは前年度からの課題になっていましたが、2015 年度は習熟度をはかるミニテストを実施し、子どもたちの進度に合わせた授業となるよう工夫したことで、出席率が改善しました。子どもたちの読み書き力のアップも確認されています。

※アペロクルス地区での奨学金事業は、学用品等の配布による就学支援のみで、子どもの権利セミナーや給食は行いませんでした。

※アペロクルス地区での奨学金事業は、すべての奨学生が小学校を卒業したため、2015 年度末で終了しました。

### 奨学生の声



#### ペレーズ地区奨学生 ジェスリン・ダヤグさん

「奨学生になって友達がたくさんできて、とってもうれいです。」そう話すジェスリンは、4 歳の時に母親を心臓発作で亡くしています。ジェスリンはその時の悲しみをよく覚えていて、父親は既に再婚しており、現在は祖母に育てられています。父親は新しい家族を養わなければならない、ジェスリンの学費を工面できま

せん。奨学金プログラムの支援は、そんな彼女にとって大きな支えになっています。

奨学生になって、たくさんの新しい友達が増えました。奨学生会や補習授業などで友達と過ごす時間が増え、悲しみを忘れられる時間が増えたのです。ジェスリンにとって、安心できる居場所、自分のことを気にかけてくれる人がたくさんいる場所ができました。

## 72 人の子どもたちを受け入れ

### 幼稚園は教育の第一歩

フィリピンでは 2011 年度より、幼稚園で読み書きの基礎を 1 年間学ぶことが義務化されました。アクセスが運営する 2 つの幼稚園では、2014 年度から教員のための研修を継続して行い、指導力の向上に取り組みながら運営しています。

### パヤタス幼稚園、 去年は給食がパワーアップ

ゴミ捨て場周辺コミュニティであるパヤタス地区に、アクセスが 1994 年に建設した幼稚園。2013 年から支援を再開し、2015 年度も、歌や踊り、読み聞かせなども取り入れた、読み書き計算の基礎を学ぶ授業を週 5 日行い、50 名の幼児が入園しました。

2015 年度も、株式会社ドコシア・オランイタからの支援により、ご飯と栄養のあるおかずを給食として提供できました。給食の食材買い出しや後片付けなどは、すべて保護者が分担してボランティアで担いました。

毎月開いている保護者会では、クリスマス・パーティーや遠足、卒園式といった行事について話し合いました。また、「子どものしつけ」、「衛生習慣」、「定期的な健康診断の大切さ」、「栄養のある食事」といった、子育てにまつわるさまざまなテーマのセミナーも実施しました。給食では、セミナーで得た知識が活かされ、野菜を多くとり入れた給食が作られるようになってきました。給食は、栄養状態を改善するだけでなく、保護者が子どもたちのために協力する場ともなっています。



ピナツボの幼稚園で行った保護者セミナー

### ピナツボ被災地で、出席率の記録更新

1991 年にピナツボ火山噴火により被災したポーラック町の幼稚園・社会教育センターで、公立幼稚園(年長組)に入る前の 3~4 歳の子どもたち 22 人を受け入れました。

2014 年度に改訂したカリキュラムのもと、図画工作や読み聞かせ、遊びを通じて学ぶ授業を行ったことで、子どもたちは楽しみながら授業に集中することができました。こうした工夫のおかげか、出席率は毎年向上しており、2015 年度は 87.8%という、設立以来最高の結果を出すことができました。保護者からは、「早くから読み書き計算を学ばせたい」という要望が寄せられてきましたが、保護者会などで何度も説明を繰り返したことで、少しずつ理解が深まっています。

2015 年度は、小学校と幼稚園の保護者を対象に、「子どもへの良い接し方」、「子どもに優しい環境とは」といったテーマでのセミナーも開催しました。参加者は、多い時でも 31 名程度と、まだ少ないことが課題です。2016 年度もセミナーを継続し、子どもに優しいコミュニティづくりの活動を住民とともに進める計画です。

## 青少年の育成

## ペレーズ地区／トンド地区

フィリピンでは、青少年の非行(喫煙、飲酒、薬物使用など)は深刻な問題となっています。アクセスでは、13~20 歳の青少年が参加できる青年会を 2 地区で組織し、下記のような活動を行うことで、地域のために協力して行動できる若者の育成に取り組んでいます。

- ✓ 社会問題についての学習会
- ✓ 都市貧困地区での暮らしと人権問題を表現する演劇、ダンス等の創作・練習
- ✓ 文化発表会への参加、開催
- ✓ 貧困について学び考える、サマーキャンプ(ペレーズ地区)
- ✓ マニラを訪問するスタディツアー(ペレーズ地区)
- ✓ 地域貢献活動(水害後の路地修復、奨学生の補習授業での指導役など)

2015 年度、首都マニラの中でも最大の貧困地区といわれるトンド地区で組織している青年会では、46 人がメンバー登録し、うち 10 数名が中心となって活動を行いました。農漁村ペレーズ地区では、15 人が活動に参加しました。



ギターの弾き方を習う青年会メンバー

## 女性と若者の仕事づくり

## フェアトレード事業

## ペレーズ地区



「子どもにお腹いっぱい食べさせてあげたい」「先生になるために進学したい」そんな夢を持つお母さんたちや若者を応援しようと、2015年度もフェアトレード商品の生産と販売に取り組みました。1人でも多くの人に働くチャンスを提供し、努力すれば夢がかなえられる地域づくりに貢献することをめざしています。

2000年から生産を続けている Mapayapa(マバヤパ)は、また1人メンバーが減り、3名となりました。背景にあるのは、発注量の減少です。2016年度は新メンバーを募集しながら、日本での販売量の増加に取り組み、発注量を少しずつ増やしていくことをめざします。

2013年度に活動を開始した Pangarap(パンガラ)は、年間4000枚の生産を経験したことで、生産者のスキル

マバヤパ  
Mapayapa 3名  
ココナツ殻雑貨生産グループ

パンガラ  
Pangarap 5名  
グリーティングカード生産グループ

年間売上合計 95万円



が向上し、商品の質も上がりました。年度後半には、日本のフェアトレード事業部メンバーがペレーズを訪れ、京都精華大学の学生がデザインした新商品などの試作品製作に取り組みました。

日本での販路は少し広げることができましたが、フィリピンや欧米での取引先の開拓は、着手できませんでした。2016年度はフィリピン事務局所属のフェアトレード営業担当を配置し、販路の拡大に取り組みます。

生産者グループが将来的に協同組合となっていくことを見通しての、生産者グループの能力強化(運営に必要なスキル研修等)も必要ですが、2015年度はほとんど取り組むことができませんでした。2016年度は隔月ペースで実施する計画です。

(関連記事 P16)

## マイクロファイナンス事業

## ペレーズ地区

商売を通じて生活を改善したいと希望する女性に少額を融資するマイクロファイナンス事業では、5村で70人に融資しました。借入金で雑貨店を営んだり、行商や炭焼き、養豚などを行い、毎週少しずつ返済します。

2010年に開始して以来、返済率100%が続いていた

本事業ですが、2014年度に入ってから返済率が低下。2015年度は返済計画の立て直しと、貸付金の回収に取り組みました。しかし思うように回収が進まないため、2016年度は規模を縮小して続きます。

(関連記事 P7 / 詳細記事 P15)

## 水牛の供給

## ピナツボ地区

## 1世帯に水牛を貸し付け

水牛は、田畑を耕したり収穫物などを運ぶ時などに活躍する、フィリピンの農業には欠かせない動物です。ピナツボ地区では、アクセスとして3頭の水牛を所有し、ピナツボ地区の希望する家庭に貸してきました。

しかし、ここ数年、ブロック工場や廃棄物分別施設で働く世帯が増え、水牛を使って農業をする世帯が減っていることから、借り手が見つからず、2015年度は3頭のうち1頭のみを貸し付けに止まりました。そのため、ニーズのない2頭は売却し、本事業は2015年度で終了することになりました。



フェアトレード

マイクロファイナンス

水牛提供

Livelihood



# コミュニティエンパワメントの現状と課題

～私たちの次のチャレンジに向かって～

アクセス日本 事務局長 野田沙良

## 村ぐるみで子どもたちを守る活動、前進中

前年度に引き続き、子どもの教育に関する事業は、着実に前進していることを実感しています。ペレーズ地区では、小学校に通えるようにするだけでなく、子どもたちが安心して暮らし、成長できる環境づくりに、この数年取り組んできました。子どもの権利セミナーを何度も開催し、村議会や地域で子どもに関わる関係者を巻き込んで「子どもの保護に関する住民評議会」の設立を実現。その結果、子どもの権利と福祉に関する村の行政が前進しています（P100に関連記事）。

2016年度からは集落ごとに保護者会リーダーをおき、「学校を休みがち」「虐待かも」といった、日々の変化に目を配ってもらうことになりました。何かあればすぐに保護者会メンバーが話し合い、必要に応じて村議会やアクセスなどと連携して解決のために行動する。そんな仕組みと意識を、つくっていくようにしています。

## 「お金を貸す」だけでない支援が求められている

このように、教育系プログラムはステップアップできていますが、マイクロファイナンス（少額融資）やフェアトレー

ドといった生計支援プログラムはここ二〜三年、壁にぶつかっています。

一つの要因として、ペレーズ内での市場が限られていることがあります。マイクロファイナンスは小規模な商売のための融資を行うプログラムですが、例えば、漁具や小さなボートの購入に充てる人がいます。それで獲れる魚の量が増えたとしても、ペレーズ内で売っている限りは、魚を買う人の数も限られていて他の人と競合してしまい、安くしか売れなかつたり、売れ残つたりしてしまいます。そういう中で利益を出し、利息をつけてお金を返すのは簡単ではありません。

この課題を克服する一つの手段として、人口の多いルソン島本島（船で片道一時間半）で売る、ということが考えられます。獲れた魚を本島まで運んで売ることができれば、島内で売るよりも大きな需要が見込めます。獲れた魚を干物などに加工すれば目持ちもするので、近隣の地方都市などで販売することも可能になるでしょう。

ただ、本島で売ると言っても、運送・販売コストがかかるので、一定の量の魚が集まらないと採算が合いません。また、加工品を作るとしても、食品衛生基準をパスするものを作ろうとするとそれなりの構えも資金も必要になります。マイクロファイナンスの利用者は零細漁業

者ばかりですから、島外への販売や加工に取り組むには、何人か集まって協同で事業を行うことが必要になります。

そう考えていくと、私たちNGOの役割は「お金を貸し、回収すること」だけでは足りません。零細漁業者が協同で事業を起せるよう、サポートすることが求められているのです。しかし、住民たちは協働事業の経験を持っていませんし、私たちの現在の力量も不十分です。

## 現地のリソースを活かしてきれていない？

フェアトレード事業について、「現地のリソース（資源）を活かす形になりきれていないのではないか」という指摘があります。特にグリーンディングカードについては、「フェアトレード」をやるために、わざわざ島外から材料を調達してきて無理やりやっているような印象がある、という指摘です。

確かに、地域ならではの資源を活用し、地域活性化につなげることができれば、こんなにいいことはありません。ただ、ペレーズはココナッツプランテーションが土地の大部分を占めていて、利用できる資源としてはココナッツと魚ぐらい。ココナッツオイル製造やココナッツの食品加工、魚の食品加工などができ

ば、島外で販路が開け、その延長上に日本へのフェアトレードも位置づけるかもしれません。ですが、それをやろうと思うと、相応の事業規模、人員体制、資金が必要になります。アクセスの現在の力量から考えると、かなりリスクの高いチャレンジなのです。

そう考えた時、現地に伝統的な工芸品などがない中で、アクセスという体力の小さなNGOが現地の人と一緒にスタートさせることができたのが、フェアトレードによるココナッツ殻雑貨やグリーンディングカードの生産事業だったので、里山資本主義的な、地域のリソースを活用し地域の活性化を図るという形になっていないという意味では、本来あるべき姿ではないのかもしれない。それでも、貧しい人たちにとっては副収入の機会になっており、「借金しなくて済むようになった」「子どもにミルクを買ってあげられるようになった」といった、嬉しい声を聞くことができます。

これから数年はフェアトレード事業に集中し、マイクロファイナンスは縮小して取り組んでいきます。商品のデザインや品質を向上させ、販路を広げて、より多くの人に副収入のチャンスを提供する。これからの数年は、私たちにどうやってチャレンジの年になります。

## フェアトレード事業部

FT 事業部/Fair Trade Division

### ■ 新商品の開発と販売で、売上アップ

フェアトレード事業部では 2015 年度、京都精華大学の学生とのコラボレーションによるデザイン、事業部単独でのデザインあわせて、11 点のクリスマスカードを新たに開発しました。そのうち 4 点はクリスマスカードとしては初めてのミニカードです。

販売においては、計 16 イベントに参加し、様々な場面で販売・営業活動を行いました。アクセス主催のイベントの会場での販売も行いました。その結果、売上は 950,627 円となり、前年度を約 19 万円上回る事ができました。

### ■ NGO × 大学のコラボレーション

京都精華大学メディア造形学科の学生さんとのデザイン開発コラボレーション企画は 2 年目となりました。学生デザイナーから提案いただいたデザインを、3 月のフィリピン出張で現地へ持って行き、生産者とともに試作。できあがった試作品を日本に持ち帰って最終調整を行い、試行錯誤の末に新デザインが確定しました。こうして完成した新クリスマスカードは、2016 年度カタログに掲載し、フェアトレードショップや雑貨店、文具店などにて販売いただけるよう、各店舗に働きかけていく予定です。

### ■ フェアトレードを知ってもらうために

2015 年度も、あべのハルカスをはじめ、さまざまな場所で出店し、国際協力にあまり関心のない層の方々にもフェアトレードを知ってもらえるよう努めました。

京エコロジーセンターでのイベントでは、子ども連れの家族が多く参加して下さり、子どもたちはココナツ殻を磨いてオリジナルのチャーム作りを楽しんでいました。同時に、ご家族の



イベント出店時のボランティアの皆さん

方には、フィリピンの現状やフェアトレードについて知ってもらえることができ、多くの方に商品を購入していただきました。

### ■ ボランティアによる奮闘のおかげで

2015 年度で最も大変だったことは、スタッフ体制です。職員が退職し、後任が決まらない中、ボランティアだけであらゆる業務を行わなければならない時期があり、経験のないスタッフが体当たりで取り組んで乗り切るという状況が数カ月続きました。

ボランティアメンバーやパートタイム職員の努力の甲斐あり、前年度と比べて売り上げを伸ばすことができたのは、何よりです。しかし、売上目標の達成にはまだまだ及びませんでした。2016 年度は、前年度の経験を活かし、大型店舗にも販路を広げて、売り上げを大きく伸ばす 1 年にしたいと考えています。

## フェアトレードにできること

### 1. ダイレクトに現金収入につながる

貧困に苦しむ人は働かなくても仕事がない、がんばって働いても低収入... ということが大きな悩み。フェアトレードで仕事の機会を増やしたり、公正な価格を支払うことで、その悩みを緩和できます。

### 2. 生産者の自立につながる

フェアトレードでは単純に商品を売買って買い支えるだけでなく、生産技術向上や組織の運営能力向上のための支援も行います。能力向上によって、将来的には NGO などに頼らずとも継続的に生産・取引できるようになります。

### 3. 生産者の自信・自尊心につながる

フェアトレードはお金や物を無償で与える支援ではありません。生産者は自分で働いて稼ぐ喜びや自信を得ることができます。またフェアトレードは

ビジネスとして成立することを目指しているので、「支援される側」と「支援する側」ではなく、ビジネスパートナーとして対等な関係を築くことができます。

### 4. 貧しい地域の人々に夢を与える

いきいき働く生産者の姿を見て、まわりの大人や子どもたちが「自分も頑張れば何かできるかも」、「貧困から抜け出せるかも」と夢を持つきっかけになる可能性があります。

### 5. 貧困問題に関心を持ってもらうきっかけになる

普段、国際協力や貧困問題に関して関心が低い人にも、「かわいい！」「おいしいそう！」という視点からフェアトレード商品を手に取ってもらえる可能性があります。フェアトレード商品を広めることで、普段何気なく購入している商品の背景に貧しい人々がいるかもしれないと気づいてもらうことができます。

【フェアトレード事業部とは】 ①貧困地区における雇用の創出と現金収入の確保、②生産者団体へのエンパワーメント、③貧困問題を日本の市民に伝え、解決手段としてフェアトレードを推進する、という 3 点を目的として活動を行っています。具体的には、ベレーズ地区でフェアトレード生産者団体の組織化、商品開発支援、商品仕入れと管理、フリーマーケット等での販売、取引先の拡大、日本でのフェアトレードの普及などを行っています。

## 開発教育チーム

GET / Global Education Team

### 誰かの行動に結びつくような活動に

「貧困問題解決に向けて行動を起こす人を増やす」という目的を掲げている GET は、2015 年度、立命館宇治高校と大手前高校の計 2 校で訪問授業をさせていただきました。

「フィリピンの現状を知ってもらいたい」「何か行動を起こしてもらいたい」それが軸となっている私たちの活動ですが、ただその思いだけでは独りよがりになってしまいます。どう伝えたらわかりやすいのか、興味を持ってもらえるのか、日々試行錯誤を重ねながらミーティングを行い、訪問授業に臨みました。

そして 2015 年度は、訪問授業を行った学校の生徒がココロ便(中古の本・CDなどの収集寄付)に協力してくれるなど、少しずつですが GET の活動が誰かの行動に結びついていることを実感する場面もみられました！それは私たちの今後の活動の原動力にもなっています。

### FIT との合同勉強会で学び合い

訪問授業の他にも、昨年度はスモークーマウンテン支援チーム(FIT)と合同勉強会を実施しました。現地に赴き活動する

## スモークーマウンテン支援チーム

FIT / Fine Interaction Team at Smoky Mountain

### 奨学金プログラムをスタート

#### 「勉強に集中できるようになった！」の声も

2015 年度前半、FIT チームは、トンド地区での現地調査と、新規事業の計画作りに取り組みました。後半期は、トンド地区ヘルピングハンドで 20 人の小学生を募集。株式会社ドロキア・オラシタからの支援により、小学校就学のための奨学金事業をスタートさせることができました。

2015 年度は新事業がスタートし、新メンバーが増えたこともあり、現地プロジェクト地についての理解を深める必要性が高まっていました。そこで、他チームと合同での勉強会を開催したり、ミーティングの初めにフィリピンやトンド地区・パヤタス地区についての知識を問うテストを行うことで、理解を深めました。

1 年を通して大切にしたのは、支援している事業地や住民の方々や直接会って交流する機会を持つということでした。2015 年 9 月、2016 年 3 月にそれぞれ 3 人の FIT メンバーが現地を訪れ、現地の住民や奨学生との交流、現地スタッフとの話し合いを行いました。ここでの大きな収穫は、人々の気持ちの変化を知ることができたことです。子どもたちからは「奨学金をもらうよ



大手前高校での授業の様子

うに、FIT から「スモークーマウンテンの今」をレクチャーしてもらい、チームの垣根を越え交流することができたと同時に GET にとっても学びのある充実した時間となりました。

2016 年度もメンバー一同、楽しくそして真面目に、活動の幅を広げていきたいと思っています。Facebook では活動報告もしておりますので、ぜひそちらも見ただけいたら嬉しいです。

Facebook  で検索

**開発教育チーム (GET)** フィリピンの貧困問題の現状や原因について、教育現場での訪問授業を中心とした様々な場で「伝える」活動を行っています。スタディツアー等でフィリピンを訪問した学生が中心となり、実際に自分の目で見て肌で感じたフィリピンのリアルな現状を伝える事を重視しています。フィリピンと日本の教育現場をつなぐ懸け橋として、貧困問題に対して行動を起こす人を一人でも多く増やすことを目標に掲げています。



うになって、勉強に集中できるようになったので、テストの点数が上がって嬉しかった！」、家族からは「以前は学校を休学させてしまっていたけれど、現在は子どもの夢を応援できて嬉しい」などの声を聞くことができました。

2016 年度も現地の人々の夢や意思を大切に、前年度の積み重ねと学びを活動に反映させ、工夫を凝らしながら楽しく活動をしていきたいと思ひます。

**スモークーマウンテン支援チーム (FIT)** マニラのゴミ捨て場周辺で暮らす人々に「自立出来るきっかけを作る」ことを目的に、日本でのイベント開催を通じた資金調達、現地のことを伝え支援者を増やすための広報活動を中心に取り組んでいます。メンバー一人一人が現地への理解と関係を深めて活動に参加することを大切に、大学生・社会人の仲間と刺激し合いながら楽しく活動しています。

ペレーズ・アペロクルス支援チーム  
FACT / First Action for Community Education Team

サポーターの皆さまと奨学生の心の交流

FACT チームでは、日本のサポーターとフィリピンの奨学生の手紙による交流を支えるため、手紙の翻訳を行っています。フィリピンの子どもたちから届くお手紙はもちろん、日本のサポーターの方からのお手紙の翻訳も、FACTメンバーが担って来ました。FACT ではこうした、金銭支援に留まらない、サポーターと奨学生の心の交流を重視して活動してきました。

日本の青少年と  
フィリピンの子どもたちの橋渡し

日本の青少年とフィリピンの子どもたちの橋渡しをすることも、FACT の重要な活動です。2016 年 1 月には、10 年以上に渡ってペレーズの子どもたちの就学を支援してくださっている修学院中学校(京都市)の朝礼に参加し、皆さんからいただいたご寄付がどんな風に役立てられているのか、支援を受ける子どもたちがどんな風に生活しているのか、といったことを写真を交えて報告させていただきました。お話を耳を傾けてくれている生徒の皆さんの、真剣なまなざしが印象的でした。

ピナツボ支援チーム PEACE  
Pinatubo Educational and Agricultural Community Empowerment

2010 年に発足した PEACE チームは、ピナツボ火山被災地であるバンバンガ州ポーラック町ミトラ地区での教育支援活動を日本からサポートすることを目的に活動しています。

現在は、被災後 16 年ぶりに再会された小学校、そして 2014 年にアクセスが建設した幼稚園・社会教育センターの運営を行っています。それらの運営費を少しでも多く集め、教育環境の改善や向上のために活動するのが PEACE の日々の活動です。2015 年度は、チーム初めての試みとして、夏と冬に京都でのフリーマーケットに出店し、約 2 万円の利益を上げることができました。9 月にはメンバーの一人がピナツボ被災地を訪問し、小学校、幼稚園、社会教育センターの授業を見学。子どもたちが元気よく楽しそうに授業に参加している様子を見ることができました。また、現地スタッフとの交流を通して運営の現状など直接聞くことができ、また日本での活動を頑張ろうと思えることができました。



修学院中学校での朝礼の様子

子どもたちの笑顔を大切にするために活動してきたFACTですが、2015 年度末にメンバーの大半が就職または留学することになり、活動休止を余儀なくされました。2016 年度は翻訳チームに合流し、また新たなメンバーが集まった時点で、活動を再開する予定です。

ペレーズ・アペロクルス支援チーム(FACT) は、農漁村地区ペレーズと、都市貧困コミュニティのアペロクルス地区を支援しています。ペレーズは、地主制度のため農漁村でありながら自給自足ができないという厳しい状況にあり、アペロクルスは都市貧困問題を抱えています。アクセスでは両地区で一人でも多くの子どもたちが小学校を卒業できるよう、奨学金プログラムを続けています。2015 年度の奨学生数はアペロクルスで 2 人、ペレーズでは 198 人。この奨学金プログラムの運営を日本で支えているのが、FACT チームです。



京都でのフリーマーケットの様子

2015 年度をもって就職し、活動を終了するメンバーが多かったのですが、2016 年度に入って新たなメンバーが二人加わり活動が軌道に乗っています。PEACE チームは今年度もミトラ地区がもっと復興し発展していくために、資金集めをし、現地にエールを送り続けたいと思います。

ピナツボ支援チーム(PEACE) は、フィリピン・バンバンガ州ポーラック町ミトラにある、ピナツボ火山被災地を支援しています。1991 年の火山噴火とその後の土石流で大きな被害を受け、被災後 16 年もの間、小学校すらなかった地域で、学校・幼稚園建設、給食の提供、社会教育セミナーの開催などを行っています。PEACE チームはそうした活動を支える資金を、楽しみながら工夫して集めています。

## 東京支部 Tokyo Branch

### 東京で、きっかけ作りを

就職を機に関西から関東へ引っ越した会員・スタッフや、関東在住のスタディツアー参加者からなる東京支部は、「国際協力に興味があるけど、動き出せていない人へのきっかけ作り」、「ツアー参加者を増やす」を目的に活動しています。

7 月には、フィリピンの現状を伝え、アクセスの活動に参加してくれる人を募るイベントを開催しました。4 名が参加してくれ、全員から「大変、満足」という評価をいただきました。より多くの参加者を集めるための広報の工夫が、今後の課題です。

10 月には、国際的なことに関心のある人々が 11 万人も来場



する国際協力のお祭り、「グローバル・フェスタ」にブース出店。フェアトレード商品を販売しながら、興味を持って下さった方にアクセスの活動を伝えました。

### 翻訳チーム

2015 年度は、アクセスの奨学金プログラムの実施地区が 2 地区から 3 地区に増え、220 人の子どもたちが奨学金を受けて学校に通いました。この奨学生の子もたちと、日本のサポーターの間では、メッセージカードなどのやりとりが行われています。1 年間でやりとりされる書類の数は、1100 点以上。ペレーズ・アペロクルス支援チーム(FACT)の学生スタッフと、翻訳チームの社会人スタッフが分担し、翻訳に取り組みました。

2015 年度は、翻訳チームが作成したサポーター向けハンドブックやプロフィール記入用紙を、初めてサポーターの皆さんに配布しました。おかげで、プロフィールを書いて送って下さるサポーターが増え、奨学生に喜んでもらうことができました。

これまで、学生ボランティアの存在が目立つアクセスでしたが、今後は翻訳チームを中心に、社会人の方々の経験やスキルも生かしてもらえるようにしていきたいと思っています。

## カフェイベント実行委員会

### リラックスできる環境で 国際協力について考えるイベントを企画

2014 年度に立ち上げたカフェイベント実行委員会は、事務局スタッフ、ボランティアスタッフ、インターンが参加し、「リラックスした雰囲気の中で国際協力について学び、考え、行動につなげるイベント」を企画・運営しました。

2015 年度は、これまでも実施してきたフィリピンの貧困を疑似体験する「家計簿づくりワークショップ」形式のイベントの他に、株式会社ココウェルの水井代表を迎えてのトークライブ、アクセスのこれまでについてのトークライブなど、新たなスタイルのイベントを企画したり、会場でのフェアトレード商品の販売にも挑戦しました。



### 1 年間で、48 名の方々が参加

2015 年度は、全 4 回のイベントに合計 48 名の方々に参加いただき、その中の 1 名にサポーターとして、6 名にボランティアとして活動に参加していただくことができました。2016 年度は、近畿各府県の様々な場所でアクセスの活動や想いを伝えられるようなトークイベントを開催していく予定です。1 人でも多くの方にアクセスの魅力を知ってもらいたいと思っています。

メディア掲載

2015年度は、新聞に7回掲載いただきました。

毎日新聞 2015年4月7日

毎日新聞

あなたの海を越えて 愛の手を



フィリピン・ペレーズ グレイディス・テラロサさん11歳

えたいと話しています。父は漁師ですが、収入は不安定です。兄は他に4人いるため、母は働きに出ることができず、生活はとてつもないです。夢をかたむけられず、支援をお願いします。

◆ 必要不可欠な古本の変わりに合わせて呼びかけた。ブックオフ・ポレシオンと提携し、収集品の査定金額に1割上乗せされた換金され、現地の子どもへの学習に役立てる。

◆ 平均査定額は文庫本1冊で25円程度。40円で現地の給食1食分に相当する。ゲームやDVDも募る。点数が多い場合、自宅への無料集荷もある。アクセス723327。(643) 723327 (逸見祐介)

約7100の島からなる共和国で、国民の4割が1日2.以下で生活している。小学校は義務教育で原則無償だが、約3割の子供たちが貧困

京都新聞 2016年3月31日

※不要な古本の変わりに合わせて呼びかけた。ブックオフ・ポレシオンと提携し、収集品の査定金額に1割上乗せされた換金され、現地の子どもへの学習に役立てる。

◆ 平均査定額は文庫本1冊で25円程度。40円で現地の給食1食分に相当する。ゲームやDVDも募る。点数が多い場合、自宅への無料集荷もある。アクセス723327。(643) 723327 (逸見祐介)

京都新聞 2015年11月7日

奨学金プログラムの後押しを受け、現地事務所が行う補習を受けるフィリピンの農村の子供たち(NPO法人アクセス提供)



NPO法人「アクセス」共生社会をめざす地球市民の会(京都市伏見区)

フィリピンでは成長著しい都市部のほか、農村部は昔ながらの自然とともに貧困が根深く残る。人口の約4割が1日2以下で暮らし、約3割の子供が小学校を卒業できないといわれる。自力では困難から抜け出せない現地の子どもや保護者らに支援するため、日本国内で支援の輪を広げようと活動する。母体は1988年に始



今、八つの農村を重点的に支援する。大地所有制度で一握りの地主だけが潤い、大多数の家庭が貧困にまみれているためだ。

「インフレで最低賃金は上がって中流層は増え、貧困層の絶対数は変わらないが、格差は一層拡大している」と野田事務局長は指摘する。野田事務局長(右)は指指する。現在活動する子どもは約200人。サポートは支援する子どもと交通し、手元が届く手紙には感謝とともに「私の夢は先生になること」などを書いていく。「手紙が目の励みになる」と喜ぶサポート員も多いという。

心通わせフィリピン支援

をつくるため、現地のコナツで作った食器をインターネットで販売。フィリピンを訪れて住民と交流するスタディツアーも年数回実施している。

野田事務局長は「手紙やツアーで仲良くなれば、他国の問題も心を通わせた温かい交流がある」と話している。

NPO法人「アクセス」共生社会をめざす地球市民の会。支援はサポート員になるほか、不要になった本やCDを寄付する方法もある。日本に手紙の贈答や日々の活動を支えるボランティアも募集する。アクセス723327。(643) 723327 日曜休み。

負担なく参加できる国際協力の仕組み、スタート！

スマホでできる支援! gooddo グッドド

日々を過ごす 新着動画

いいね!して最新情報をチェック! いいね!100

『アクセス-共生社会をめざす地球市民の会』の応援ポイント

NPO法人 アクセス-共生社会をめざす地球市民の会

26,029

18,810

92位

ゴールまで応援! (¥1,000) ゴールまで応援! (¥2,000)まで、あと 1,899!

いいね!で応援する 100ポイント 100円相当

10人に3人が、小学校を卒業できないフィリピンへ

10人に3人が、小学校を卒業できないフィリピンで「子どもに教育、女性には夢」を提供。アクセスは、1988年に京都で生まれた、国際協力NGOです。「貧困をなくしたい」という思いを持った人々が集い、益々活動しています。

無料でできる支援 Gooddo

毎日、誰でも、手軽に、クリックするだけ。自己負担も登録手続きもなしで、NPO や NGO を応援できる、インターネット上の仕組みです。

1. インターネット上で「gooddo アクセス」と検索
2. 画面を下にスクロールして、「応援する」という赤いボタンを毎日1回クリック。クリックの度にポイントが貯まり、ポイントに応じた支援金(企業からの広告費)がアクセスに入ります。



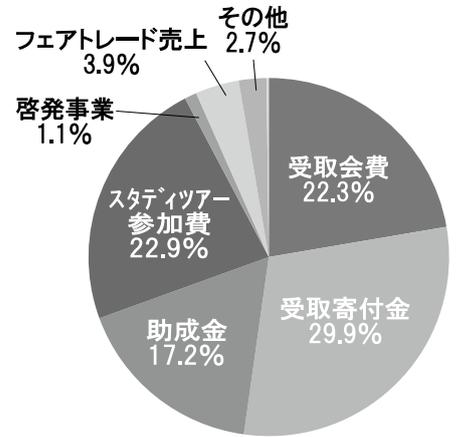
# 2015年度決算報告

活動計算書 自2015年4月1日至2016年3月31日

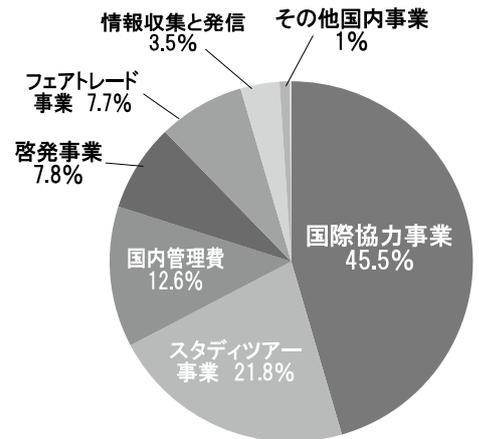
(単位:円)

科目	金額		
<b>I 経常収益</b>			
1. 受取会費			
正会員受取会費	580,000		
アクセス・サポーター会費	1,678,000		
奨学金サポーター会費	2,985,000		
購読会員受取会費	24,000		
マンシリ会員受取会費	149,000	5,416,000	
2. 受取寄付金			
一般受取寄付金	3,563,158		
事業受取寄付金	3,703,890	7,267,048	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	4,184,340	4,184,340	
4. 事業収益			
途上国の現実に学ぶ事業	5,557,241		
国際協力に関する知識の普及・啓発事業	263,471		
フェアトレード事業	950,627		
国際協力事業	604,800		
その他国内事業	45,100	7,421,239	
5. その他収益			
受取利息	1,177	1,177	
<b>経常収益計</b>			24,289,804
<b>II 経常費用</b>			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	3,220,850		
ボランティア謝礼	126,181		
通勤費	122,126		
法定福利費	446,617		
人件費計	3,915,774		
(2)その他経費			
海外事業費	13,493,699		
売上原価	429,925		
広報宣伝費	119,082		
諸謝金	46,060		
印刷製本費	282,137		
旅費交通費	1,223,092		
通信運搬費	474,714		
消耗品費	207,161		
水道光熱費	107,403		
地代家賃	534,870		
賃借料	11,124		
減価償却費	24,059		
保険料	45,790		
出展費用	45,855		
諸会費	1,000		
研修費	2,540		
雑費	9,860		
その他経費計	17,058,371		
事業費計		20,974,145	
2. 管理費			
(1)人件費			
給料手当	1,721,400		
通勤費	90,974		
法定福利費	273,733		
人件費計	2,086,107		
(2)その他経費			
業務外注費	232,291		
印刷製本費	35,220		
会議費	5,633		
旅費交通費	31,040		
通信運搬費	93,833		
消耗品費	63,875		
水道光熱費	35,801		
地代家賃	178,290		
賃借料	2,000		
広告宣伝費	57,000		
新聞図書費	1,858		
諸会費	75,000		
研修費	11,130		
租税公課	1,154		
支払手数料	120,003		
その他経費計	944,128		
管理費計		3,030,235	
<b>経常費用計</b>			24,004,380
税引前当期正味財産増減額			285,424
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			215,424
前期繰越正味財産額			8,198,100
次期繰越正味財産額			8,413,524

## 収入内訳



## 支出内訳



※当該年度は特定非営利活動に係る事業以外の事業については実施していません。

# 2015年度決算報告

## 貸借対照表 2016年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金) 現金	201,405	未払金	633,070
普通預金	9,383,711	前受金	2,215,999
現金・預金計	9,585,116	預り金	3,913
(売上債権) 売掛金	62,770	未払法人税等	70,000
未収金	200,400	流動負債計	2,922,982
売上債権計	263,170	<b>負債の部合計</b>	<b>2,922,982</b>
(棚卸資産) 棚卸資産	842,198	<b>正味財産の部</b>	
貯蔵品	170,000	<b>【正味財産】</b>	
棚卸資産計	1,012,198	前期繰越正味財産額	8,198,100
(その他流動資産) 前渡金	276,021	当期正味財産増減額	215,424
その他流動資産計	276,021	正味財産計	8,413,524
流動資産合計	11,136,505	<b>正味財産の部合計</b>	<b>8,413,524</b>
<b>【固定資産】</b>			
(有形固定資産) 什器備品	1		
有形固定資産計	1		
(投資その他の資産) 保証金	200,000		
投資その他の資産計	200,000		
固定資産合計	200,001		
<b>資産の部合計</b>	<b>11,336,506</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>11,336,506</b>

## 財務諸表の注記 (2015年4月1日から2016年3月31日)

- 重要な会計方針  
財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。  
(1) 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産は、定額法で償却をしています。  
(2) 棚卸資産の評価基準および評価方法  
棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は先入先出法によっています。
- 事業別損益の状況  
事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	途上国の現実に学ぶ事業	情報収集・発信事業	国際協力に関する知識の普及・啓発事業	フェアトレード事業	国際協力事業	市民団体への協力	その他国内事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>										
1. 受取会費	0	21,000	120,000	144,000	3,542,000	0	0	3,827,000	1,589,000	5,416,000
2. 受取寄付金	0	0	0	0	3,703,890	0	0	3,703,890	3,563,158	7,267,048
3. 受取助成金等	0	0	0	909,340	1,575,000	0	0	2,484,340	1,700,000	4,184,340
4. 事業収益	5,557,241	0	263,471	950,627	604,800	0	45,100	7,421,239	0	7,421,239
5. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0	1,177	1,177
<b>経常収益計</b>	<b>5,557,241</b>	<b>21,000</b>	<b>383,471</b>	<b>2,003,967</b>	<b>9,425,690</b>	<b>0</b>	<b>45,100</b>	<b>17,436,469</b>	<b>6,853,335</b>	<b>24,289,804</b>
<b>II 経常費用</b>										
(1) <b>人件費</b>										
給料手当	336,713	336,713	1,243,248	442,552	732,119	0	129,505	3,220,850	1,721,400	4,942,250
ボランティア謝礼	0	0	0	126,181	0	0	0	126,181	0	126,181
通勤費	9,652	9,652	35,638	49,365	14,107	0	3,712	122,126	90,974	213,100
法定福利費	58,060	58,060	214,372	8,934	84,858	0	22,333	446,617	273,733	720,350
<b>人件費計</b>	<b>404,425</b>	<b>404,425</b>	<b>1,493,258</b>	<b>627,032</b>	<b>831,084</b>	<b>0</b>	<b>155,550</b>	<b>3,915,774</b>	<b>2,086,107</b>	<b>6,001,881</b>
(2) <b>その他経費</b>										
海外事業費	4,083,086	0	0	222,020	9,188,593	0	0	13,493,699	0	13,493,699
売上原価	0	0	0	421,648	8,277	0	0	429,925	0	429,925
業務外注費	0	0	0	0	0	0	0	0	232,291	232,291
諸謝金	0	0	3,920	42,140	0	0	0	46,060	0	46,060
広報宣伝費	0	0	56,487	62,595	0	0	0	119,082	57,000	176,082
印刷製本費	42,187	222,415	0	7,132	10,243	0	160	282,137	35,220	317,357
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	5,633	5,633
旅費交通費	555,224	5,910	76,490	135,876	408,202	22,320	19,070	1,223,092	31,040	1,254,132
通信運搬費	39,570	150,868	70,141	78,532	109,516	0	26,087	474,714	93,833	568,547
地代家賃	37,440	32,095	117,674	117,674	219,287	0	10,700	534,870	178,290	713,160
水道光熱費	7,518	6,446	23,629	23,629	44,031	0	2,150	107,403	35,801	143,204
出張費用	1,000	0	1,357	34,498	0	9,000	0	45,855	0	45,855
研修費	0	0	2,000	0	0	0	540	2,540	11,130	13,670
賃借料	1,500	400	300	500	8,424	0	0	11,124	2,000	13,124
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,858	1,858
減価償却費	0	0	0	24,059	0	0	0	24,059	0	24,059
消耗品費	28,270	10,574	38,378	54,930	71,520	0	3,489	207,161	63,875	271,036
保険料	33,390	0	0	0	12,400	0	0	45,790	0	45,790
諸会費	1,000	0	0	0	0	0	0	1,000	75,000	76,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	1,154	1,154
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	120,003	120,003
雑費	0	0	0	0	9,860	0	0	9,860	0	9,860
<b>その他経費計</b>	<b>4,830,185</b>	<b>428,708</b>	<b>390,376</b>	<b>1,225,233</b>	<b>10,090,353</b>	<b>31,320</b>	<b>62,196</b>	<b>17,058,371</b>	<b>944,128</b>	<b>18,002,499</b>
<b>経常費用計</b>	<b>5,234,610</b>	<b>833,133</b>	<b>1,883,634</b>	<b>1,852,265</b>	<b>10,921,437</b>	<b>31,320</b>	<b>217,746</b>	<b>20,974,145</b>	<b>3,030,235</b>	<b>24,004,380</b>
<b>III 当期経常正味増減額</b>	<b>322,631</b>	<b>△ 812,133</b>	<b>△ 1,500,163</b>	<b>151,702</b>	<b>△ 1,495,747</b>	<b>△ 31,320</b>	<b>△ 172,646</b>	<b>△ 3,537,676</b>	<b>3,823,100</b>	<b>285,424</b>

- 使途等が制約された助成金等の内訳  
使途等が制約された助成金等の内訳は以下の通りです。  
当期正味財産は8,413,524円、そのうち768,609円は使途が制約される財産です。したがって、使途が制約されていない正味財産は7,644,915円となります。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
事業指定寄付金	499,969	0	0	499,969	台風31号被災者支援
事業指定寄付金	0	558,238	558,238	0	バヤタス幼稚園支援
事業指定寄付金	0	404,410	404,410	0	トド業学舎支援
近畿労働金庫「心のそしな」事業	0	1,526,000	1,526,000	0	ベレーズ・ピナツボ給食教育支援
近畿労働金庫吹田支店戸修復事業	0	500,000	500,000	0	ピナツボ飲料水支援
世界のひとのためのJICA基金	0	604,800	604,800	0	マイクロファイナンス
今井記念海外協力基金助成金	0	875,000	875,000	0	ベレーズ子どもに優しいコミュニティ建設
アースNGO組織強化支援	0	1,200,000	1,200,000	0	組織強化支援
庭野平和財団活動助成金	0	600,000	400,000	200,000	2016年度事業に係る部分は前年度として資産計上。ピナツボ子どもに優しいコミュニティ建設
まちづくり地球市民財団助成金	0	909,340	840,700	68,640	フェアトレード事業支援(期末残高は2016年4月分)
連合「愛のキャン」助成金	0	500,000	500,000	0	バヤタス幼稚園支援
JEC連合「スマイルbyJEC」助成金	0	100,000	100,000	0	バヤタス幼稚園支援
<b>合計</b>	<b>499,969</b>	<b>7,777,788</b>	<b>7,509,148</b>	<b>768,609</b>	

## 財産目録

2016年3月31日現在

《資産の部》		
<b>【流動資産】</b>		
(現金・預金)		
現金	201,405	
事務局	(6,038)	
ピナツボ支援チーム	(24,279)	
スモークマウンテン地区支援チーム	(43,738)	
フェアレド事業部	(112,237)	
開発教育支援チーム	(15,113)	
普通預金	9,383,711	
三菱東京UFJ銀行京都中央支店	(2,961,800)	
三菱東京UFJ銀行京都支店(FIT)	(472,645)	
ゆうちょ銀行	(42,460)	
関西アーバン銀行藤森支店(FTT)	(2,446,374)	
近畿労働金庫伏見支店	(1,543,466)	
郵便振替	(1,916,926)	
現金・預金計	9,585,116	
(売上債権)		
売掛金	62,770	
3月フェアレド商品翌月入金分	(62,770)	
未収金	200,400	
3月会費翌月入金分(JCB・クラウド・ペイメント)	(192,000)	
2014年度奨学金未収分	(8,400)	
売上債権計	263,170	
(棚卸資産)		
棚卸資産	842,198	
FT商品	(803,049)	
FIT商品(クリアファイル)	(12,954)	
FIT商品(タオル)	(26,195)	
貯蔵品	170,000	
書き損じハガキ	(125,315)	
切手等	(44,685)	
棚卸資産計	1,012,198	
(その他流動資産)		
前渡金	276,021	
ACCESSフィリピン ピナツボ事業前途金	(200,000)	
ACCESSフィリピン FT事業部前渡金	(76,021)	
その他流動資産計	276,021	
流動資産合計		11,136,505
<b>【固定資産】</b>		
(有形固定資産)		
什器備品(FT事業部PC)	1	
有形固定資産計	1	
(投資その他の資産)		
保証金	200,000	
投資その他の資産計	200,000	
固定資産合計		200,001
資産の部合計		11,336,506
《負債の部》		
<b>【流動負債】</b>		
未払金	633,070	
事務所家賃4月分	(59,430)	
事務所管理費3-3月分	(39,000)	
事務所水道代9-2月分	(12,000)	
3月分業務交通費	(13,290)	
3月分通信運搬費(料金後納)	(3,614)	
スタッフ通信費立替分	(6,295)	
購入先支払分	(3,879)	
業務委託手数料	(4,381)	
3月分給与	(365,000)	
ボランティア謝礼(FTT)	(126,181)	
前受金	2,215,999	
奨学金次年度分	(2,207,999)	
アクセス・サポーター費次年度分	(8,000)	
預り金	3,913	
源泉所得税	(3,913)	
未払法人税等	70,000	
流動負債計		2,922,982
負債の部合計		2,922,982
正味財産		8,413,524

## 監査報告書

監査報告書	
特定非営利活動法人アクセス ー共生社会をめざす地球市民の会 理事長 新聞 純也 殿	
平成28年5月25日	
監事 渡邊 功	
<p>私は、平成27年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)における            特定非営利活動法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会の業務及び財産の状況            について監査を行いました。</p> <p>その結果、業務については、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実            はないことが認められました。また、財産の状況については、NPO法人会計基準に準            拠して、財務諸表等が適正に表示されているものと認められました。</p> <p>以上、報告します。</p>	

# 2016年度事業計画

## フィリピン

### 2016年度事業の概要

2016年度フィリピンでは、4つの事業地での活動を継続し、教育支援・生計支援プログラムを実施するとともに、プログラムに参加する住民のエンパワメントをすすめます。特に組織化の強化、活動の質の向上に重点を置きます。

### 事業地ごとの取り組み課題と目標

2016年度は、前年度の事業の中で現れた課題の解決を図りつつ、これまでの事業を継続・強化します。

#### 1. 農漁村 ペレーズ地区

奨学金プログラムでは、奨学生会や保護者が主体となり「子どもの保護に関する村評議会」への働きかけを通じて子どもに優しいコミュニティの実現をめざし、活動を継続します。保護者会の活動と組織を、従来の村単位のものから集落単位のものへと、よりきめ細やかな対応ができるように再編します。また2009年以來の活動の包括的な評価作業を進め、今後の計画作成につなげます。

フェアトレードプログラムでは、生産規模の拡大に対応した生産者の生産能力強化を進めるとともに、日本のみならず欧米での販路の拡大をめざします。

マイクロファイナンスでは、債務不履行のメンバーが増えたため、当面、返済を続けているメンバーを対象を絞り込み事業を縮小して継続します。

青年会は植樹や清掃など地域への貢献活動を継続すると共に、2016年度は演劇ワークショップを実施し、メンバーの自己表現の能力強化を図ります。

#### 2. 都市スラム トンド地区

青年会プログラムは、トンド・スモーキーマウンテン地区周辺に暮らす若者を対象に文化活動や地域貢献活動を通じた組織化を継続します。また、スモーキーマウンテンの南隣に位置する仮設住宅地区で2015年9月から開始した奨学金プログラムを継続します。

#### 3. 火山被災地 ピナツボ地区

小学校・幼稚園への教育・給食支援を継続します。また社会教育センターにおいて、幼稚園年少組の運営および主婦・青年を対象とした社会教育を実施します。昨年からは開始した小学校・幼稚園のPTAを対象とした子どもの権利・福祉に関する啓発事業を通じた子どもに優しいコミュニティづくりを継続します。小学校敷地内の井戸の掘削も行い、飲料用の水を確保できるようにします。

#### 4. 都市スラム パヤタス地区

幼稚園年少組の運営を行い、週5日の授業と給食、月1回の保護者会ミーティングと子どもの権利、保健衛生、立ち退き問題に関するセミナーを実施します。

#### 5. 管理部門

次の諸項目を重点課題と位置づけ、取り組みます。

- 1) 中堅スタッフの育成(特に生計プログラム担当者)、2) 運営規則の改訂

ペレーズ地区	15年度実績	16年度予定
奨学金・給食プログラム	198人	180人
フェアトレードプログラム	8人	8人
青年会プログラム	15人	25人
マイクロファイナンス(少額融資)プログラム	70人	15人

トンド地区	15年度実績	16年度予定
青年会プログラム	46人	50人
奨学金プログラム	20人	25人

ピナツボ地区	15年度実績	16年度予定	
教育・給食プログラム	小学校	104人	127人
	幼稚園	45人	55人
社会教育(主婦・青年)	15人	25人	
カラバオ(水牛)供給プログラム	1家族	-	
井戸掘削事業	-	1本	

パヤタス地区	15年度実績	16年度予定
デイケアセンターの運営	50人	50人

# 日本

## 2016年度事業の概要

2016年度はフェアトレード事業に力を入れ、売り上げを伸ばして事業モデルを確立し、次年度以降の土台を築くことをめざします。

また、より多くの人にフィリピンの貧困の現状とアクセスの活動を知ってもらい、ともに活動を創ってもらえるよう、アクセス主催イベントの取組みを継続します。これらをスタディツアーとともに日本での主要三事業として進めていきます。

### 1. 地球市民教育事業

フィリピンの貧困の現状、貧困や戦争の原因、そして貧困や戦争の問題をアクセスがどのように解決しようとしているのか。これらを発信し、共感してくれる人を増やしていくのが「地球市民教育」です。

2016年度もアクセス主催イベント(年5回、75名の参加)を活動の柱として継続開催します。また、3回のスタディツアーの他に、大学・高校のフィリピン研修を受け入れます。

職員の「伝える技術の向上」に取り組み、スタディツアー・イベント・講義・講演を通じた地球市民としての活動参加につなげます。

### 2. フェアトレード事業

2016年度の売上目標を184万円とし、専従職員を置いて、売り上げ拡大に向け以下の課題に取り組みます。

- 1) カード生産:品質向上と新商品開発(10種)
- 2) カード販売:(大型店との取引開始を含む41件、124万円の売り上げ)
- 3) ココナッツ雑貨生産:主力商品の絞り込みと新商品開発
- 4) ココナッツ雑貨販売:取引先拡大の試み、60万円の売上

### 3. 10年後のビジョン議論

2016年度も、10年後のビジョンの議論を継続します。日本では、ボランティアスタッフや会員との議論の場を設定し、2016年度中にまとめ、その内容を2017年度にフィリピンに提案し、議論を行います。そのプロセスを通じて、中期計画の作成(2017年度)につなげます。

ビジョン・ミッション・ゴール、10年後のビジョン、中期計画、年度計画の間に整合性をつけ、アクセスにかかわる全ての人々が共通の理解を持って協働できるようになることをめざします。また、議論を通じて、アクセスの次世代を担うリーダーを育成していきます。

### 4. 参加しやすい仕組みづくりと広報

一人でも多くの方に活動に参加・協力していただけるよう、以下の取組みを工夫しながら進めます。

#### 【伝わる情報発信】

- 1) Facebookを活用したこまめな情報発信
- 2) プレスリリースを通じてメディア露出を拡大
- 3) 団体リーフレットの改訂:認定NPO法人版の作成
- 4) 公式ホームページのリニューアル

#### 【気軽に協力してもらおうための取組み】

- 1) 書き損じハガキ収集キャンペーンの継続(5000枚)
- 2) 中古CD・DVD・本・ゲームを集めてフィリピンを支援する「ココロ便」(ブックオフとの連携事業)の継続(20万円)
- 3) メールマガジンとボランティア情報メールの統合、リニューアル。登録者数500人目標。
- 4) Facebook グループページの活用

#### 【会員・サポーターになってもらうための取組み】

- 1) 支援の意義や効果を分かりやすく伝える会員・サポーター募集キャンペーンの実施  
\* マンスリーサポーター募集 (7月~)  
\* 奨学金サポーター募集 (2017年3月~5月)
- 2) クレジットカード決済システムの積極的運用

#### 【情報発信、報告および感謝を伝えるコミュニケーション】

- 1) ニュースレター「となりのアジア」の年4回発行
- 2) 年次報告書の年1回発行
- 3) 会員・サポーター・支援者の皆さまへのクリスマスカード

### 5. その他

以上の取組みを支える基盤を強化し、持続可能な組織を実現するために、以下のような取組みを進めます。

- 1) 認定NPO法人格取得に伴う寄付キャンペーン
- 2) アクセス・フィリピンへの運営サポート:年4回の訪問
- 3) 新職員を対象にした研修の実施

# 私たちのめざすもの 「誰も犠牲にしない豊かな社会」



## ■痛みを和らげながら、原因にも目を向ける

アクセスのミッション（使命）は、3つです。

1つ目は、貧しい人々が今まさに直面している貧困の痛みを和らげようとする活動（教育、保健衛生、生計面などの支援）です。2つ目は、貧困の原因を明らかにしながら、貧困をなくそうとする人々を増やすことです。3つ目は、それら2つを実践し、よりよい社会を創っていく力を、日本人・フィリピン人ともに身につけてもらうために、協力できる場を提供することです。どれか1つ欠けても、貧困をなくすことはできないと考えています。

## ■国境を越えて思いやりあう関係を築く

アクセスの奨学金プログラムは、週300円（年間15000円）で一人の子どもを小学校に通えるようにする、教育里親制度です。奨学金を受給したとしても、その家族がすぐに貧困から抜け出せるわけではありません。しかし、食事さえ満足に準備できないような時であっても、「日本で応援してくれている人がいるんだから、何とか頑張らないと」と感じる人は多く、支援者の存在が心の支えとなっています。他方、日本の奨学金サポーターの中には、「フィリピンの子どもたちから届く手紙が励みになり、辛い仕事も頑張れます。」とおっしゃる方もいます。単なる経済援助ではなく、「国境を越えて思いやりあう関係を築くこと」ができればと思いながら、プログラムを実施しています。

貧困の中で生きるとは、次々と問題が押し寄せる毎日を生き延びるということです。私たちNGOにそれら全ての問題を解決することはできませんし、問題を解決していくのは問題の中で生きる人々自身です。そんな中、「希望を持ち、前を向いて生きていこう」と思えるよう支援するのが、私たちNGOの役割だと考えます。

## ■ペレーズの漁獲量減少と日本

アクセスの事業地の1つペレーズ地区の漁師は言います。「20

年前は数時間で何キロもの魚がとれた。でも今は、8時間漁を続けてもせいぜい2~3キロだ。」ペレーズ近辺の漁獲量減少の最大の原因は、日本、中国、台湾、韓国などから来る大型漁船による乱獲と言われています。実は私たちは、知らず知らずのうちにフィリピン近海でとれた魚を、日本で口にしているのです。

「より便利で、より安く、より質の高い暮らし」を求める日本のライフスタイルは、見えないところで、ほかの国の人々の生活に影響を与えています。こうした日本のライフスタイルを見直し、どうすれば「誰もが人間らしく幸せに暮らせる世界」、「見えないどこかで誰かを犠牲にしない世界」を創れるのか、考えていく必要があるのではないのでしょうか。

## ■「誰も犠牲にしない豊かな社会」をめざして

日本は中流層の多い経済大国から、格差社会に転落しようとしています。貧困問題は南の国の問題だけではありません、日本でも子どもの貧困・女性の貧困の問題が深刻化しています。そうした中で、世界の見えない誰かを犠牲にすることなく、例えば私たちが直接かかわっているフィリピンの貧しい人々とともに、より多くの方が幸せを感じられるような社会や世界のあり方について議論し、実践していくことがますます必要になっています。

原始時代のような暮らしに後戻りするのではなく、しかし便利さや物質的な豊かさばかりを追い求めるのでもない。個人の多様な価値観を尊重しながらも困った時は助け合えるような、新しい形の「豊かな社会」「豊かな世界」が必要になっているのではないのでしょうか。

アクセスは、経済的な貧しさを克服しながら、新しい形の「豊かな社会」を築こうとする人々が出会い、協力できるような場でありたいと考えています。そうした協力が国境を越えて広がり、希望を持って生きられる人が一人でも増えるように、皆さまとともに活動を創っていきたく思います。

# 私たちのめざすもの 「私たちの活動の柱」

## 活動の柱1

### エンパワメントという考え方

なかまと出会い、協力し、力をつけ、  
ともに課題を解決する

私たちは、貧困問題を解決する主体は、貧困の中で生きる住民自身であると考えています。その上で、住民自身が自らを組織し、協力して自分たちの抱える問題を解決する力を身につけること(エンパワメント)を支援することが、NGOの主要な役割であると考えているのです。

具体的には、教育支援、生計支援、青年育成などのプログラムを通じて生活改善をすすめながら、プログラム参加者の組織づくりを行い、活動の一部または全部を住民自身の手で運営できるようになることをめざしています。また、各地域の貧しい人々が抱える問題(都市貧困コミュニティであれば強制立ち退きの問題、農村であれば大土地所有制の問題など)にも取り組むことのできる、地域全体をカバーする住民自身によって構成された住民協議会の建設もめざしています。

一人ひとりの人間が持つ力は小さくても、得意分野を活かし、支えあい、学びあい、協力する場となる組織があれば、貧困に立ち向かうための大きな力を生みだせる。そう信じて、組織づくりを通じたエンパワメントを大切にしています。

### 私たちが創ろうとする住民組織とは

私たちが最貧層の人々と共に創り出そうとしている、貧しい人々自身の組織(People's Organization=PO)は、次のような力を持つ組織です。

1. 民主主義を実践する力
2. 事業を運営する力
3. コミュニティ内のより貧しく、より抑圧されている人々を優先することのできる力
4. コミュニティの内外を問わず、人権・戦争(支配者による暴力的支配)という諸問題に取り組むことのできる力
5. 他のコミュニティ・他の地域・他の国の民衆の貧困・人権・戦争(支配者による暴力的支配)への取り組みに開かれ、連帯することのできる力
6. 地方や中央政府と交渉し、場合によっては闘うことのできる力

他方、「北」(先進国)の市民のエンパワメントも、NGOの重要な役割であると考えています。「南」(発展途上国)の貧困問題は、16世紀以降の近代植民地支配に始まる「北」による「南」の支配と搾取の結果です。この地球にある限られた資源や土地を、より多く手に入れることができる、またはより多く利用できる国や人々だけが豊かになり、それらを奪われたり自由に利用できない国や人々は貧しさを強いられます。貧困問題を解決するには、そうしたアンフェアな世界の仕組みを変えていく必要があります。

そして、そうした世界の仕組みを変えていくためには、「南」の貧しい人々の努力だけでなく、「北」の市民の自覚と参加が不可欠です。経済的に豊かであっても、社会を変える力をまだ十分に持たない私たち「北」

の市民が協力できるネットワークを創り、議論と実践の場を提供することでエンパワメントする。それもまた、NGOの任務だと考えます。

アクセス日本のボランティア活動の促進に重点を置いた活動は、まさにその実践です。アクセスの目的に沿いつつも、それぞれ異なるテーマや課題を掲げたチームが組織され、独自の会議と活動を持って、自分たちで決めたことを自分たちで実行しています。現在、7つの支援チーム・事業部・支部・委員会が活動を継続しており、チームメンバーとして登録されているボランティアスタッフの数は約70名です。

私たちにとってボランティアスタッフとともに進める活動は、日本の市民のエンパワメントの一つの形であり、それ自身が私たちの会の目的となっています。そして、ボランティアスタッフ自身がさらに多くの人々に働きかけ、エンパワメントを進めているのです。

## 活動の柱2

### 地球市民という考え方

「日本人」「フィリピン人」という区別を越えて  
「地球市民」として考え、行動する人を増やす

貧困問題に取り組むとき、『南』の問題は『南』の人々が解決するのであり、『北』の人々はそれを外部から支援するだけである」という考え方があります。しかし私たちは、たとえ「南」の地域で発生している問題であっても、「北」の市民も「地球市民」として「南」の市民と同じように問題に主体的に取り組むことができるし、取り組むべきであるという考え方をしています。

1980年代以降、グローバル化が急速に進展・深化し、多国籍企業化による資本の「北」から「南」への移動と、移民・出稼ぎ労働者の「南」から「北」への移動が歴史的規模で進行しています。1990年代以降の日本のNGO活動の発展も、こうした文脈の中にあります。そうした中で、「南」と「北」の市民同士の、政府や企業を媒介としない直接的なつながりが、国境を越えて質・量共に発展しています。日本の社会や政府の問題は日本人の問題、と済ませてしまうことのできない状況が生まれつつあるのです。フィリピンの社会や政府の問題も同様です。

こうした社会背景のもと、アクセスはスタディーツアーをエンパワメントと地球市民形成のための重要な環としてとらえ、力を入れて取り組んできました。また、フィリピンで日本人インターンを積極的に受け入れ、支援チーム・事業部も、年に1~2度フィリピンのプロジェクト地を訪れ、支援している住民との交流や担当スタッフとの会議を直接行ってきました。アクセスの組織自身も、形式的には日比それぞれの国家の法律に基づきそれぞれの国に法人を組織していますが、実質的には単一の国際NGOとして活動を行っています。

こうして、私たちは「南」と「北」で市民のエンパワメントを進めながら、国境や国籍を超えて同じ目的を共有する「地球市民」という意識でたくさんの人々をつなげ、市民同士の直接の協働関係を築くことを通じて、貧困問題を解決しようとしています。

※本文書は要約版です。「私たちの活動の柱」全文は、  
<http://www.page.sannet.ne.jp/acce/pdf/vision.pdf>  
で、ご覧いただけます。

# 私たちのめざすもの 「エンパワメントと組織化」

「エンパワメント」とは、アクセスが貧しい人々の支援をする際、もっとも重視している考え方です。エンパワメントには様々な定義がありますが、簡単に言えば、「人々の持つ潜在能力をひきだし、自ら問題を解決できるような力をつけること」と言えます。

## 自立支援としてのエンパワメント

貧しい人々の生活状態をよくしたいと思ったとき、支援の仕方にはさまざまな方法があります。1つは、食事を提供したり、着るものを提供したり…今まさに足りていないものを、現物で提供するという支援です。これは短時間ででき、成果もわかりやすい。けれども、多くの貧しい人々は「援助をもらうより、自ら働いて生活を良くしたい」と願っているのが現実です。

そこで多くのNGOが行っているのが、「問題を解決する手段を教える」という支援です。貧しい農民には、より収穫を得られるような農法を教える。子どもたちには、将来、安定した仕事につきやすくするために、教育の機会を提供する。働きたくても仕事が見つからない人には、商品として売れる品物を作る技術を身につけてもらえるよう訓練する。こうして、それぞれの人が直面している課題について、その課題を解決するための力を身につけられるような支援(エンパワメント)を行うのです。アクセスのプログラムのほとんどが、これに当てはまります。しかし、アクセスはそれだけで終わりたくないと考えています。

## 「協力する力をつける」エンパワメント

ある子どもを大学進学まで支援し、卒業後に一流企業に就職できたしましょう。その子は家族のために立派な家を建て、携帯電話やコンピュータを買って、不自由ない生活を実現することができるでしょう。でも、その子が他の貧しい家族については気にかけないとしたら…？

フィリピンでは、家族・親戚間での助け合いはとても大切にされていますが、血縁関係にない人々同士が助け合ったり、みんなで協力して問題を解決しようとする姿勢はそれほど強くありません。むしろ、貧しさから抜け出そうと、「家族や親戚のために、他を蹴落としてでも自分はチャンスを掴まなければ」と努力する人が多いといえるかもしれません。

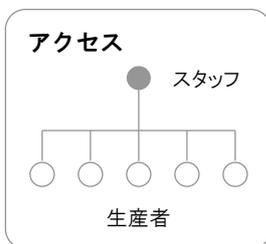
そんな社会の中で、同じ苦勞を抱える人々同士が、力をあわせて共通の課題に立ち向かっていけるようにしていきたい、というのがアクセスの考えです。たとえば奨学金プログラムでは、子どもたちに教育の機会を提供すると同時に、保護者会を組織しています。保護者会では、子どもたちの多くがお腹をすかせたまま授業を受けているという現状をなんとかしようと、保護者が交代で給食を調理し、届けるという活動を始めました。個人では解決できない問題について、共通の課題を抱えた保護者が自らを組織し、協力し合い、問題解決のための取り組みを皆で実施し、継続できるようにしていく。アクセスは、そうした活動に必要な資金を調達し、その事業の運営・組織の運営にあたって必要なさまざまなスキルを保護者が身につけられるよう、サポートをしています。アクセスでは、こうした集団に対するエンパワメントに力を入れています。

もう1つ、アクセスがめざしているのは、貧しい人々に地域ぐるみで問題を解決しようとする力を身につけてもらおう、ということです。教育や仕事、青少年育成など、特定分野ごとの事業運営と並行して、地域全体が抱える課題(大土地所有制や、立ち退きの問題など)に取り組める組織をつくることをめざし、活動を行っています。

### フェアトレードプログラムの場合

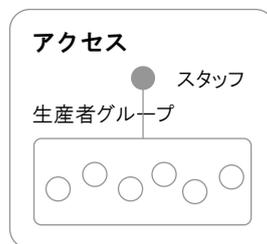
ペレーズ地区で、地域に豊富にある素材(ココナツ殻など)を活用した商品の生産・販売を行い、そこから得られる収入で生産者の生活を向上させていくという取り組みです。

2000年スタート当初



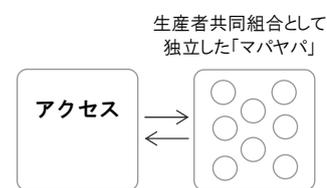
働きたいと願う女性を対象に、技術指導を行い、商品生産を開始。日比共同でデザインを開発し、主に日本で販売。一人ひとりの生産者が、アクセスのスタッフから直接、指導や注文を受けていました。

2012年度



生産者グループ「マバヤバ」を組織して、役員選出、規約づくり、定例会議の開催が実現。以前はアクセス・スタッフが行っていた発注の配分、品質管理、出荷準備などもメンバーで分担して行うようになってきました。アクセス・スタッフは、生産者団体が自立できるよう、サポートを行っています。

将来的には…

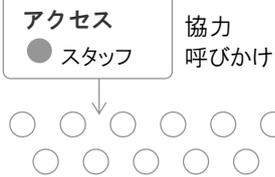


生産者一人ひとりが対等な立場で経営・運営にたずさわり、民主的にものごとを決定する共同組合として、マバヤバが自立することを目指しています。アクセスは、マバヤバの取引先であり、相談役として関係を継続します。

## 給食プログラムの場合

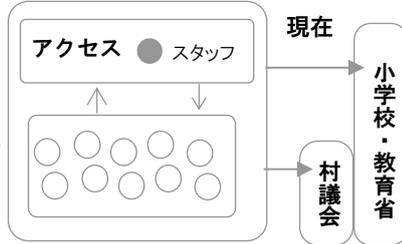
ピナツボ地区の子どもたちのための給食プログラムでは、アクセスが資金を確保し、保護者が買出し、調理、配膳、後片付けを担っています。

### 2010年スタート



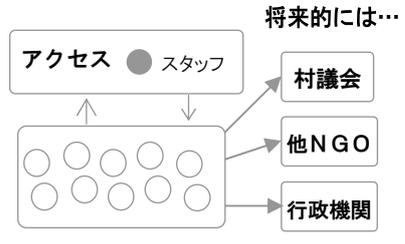
保護者に呼びかけ、「保護者会」を組織

近畿ろうきんからの支援で給食プログラムを実施するにあたり、幼稚園・小学校の保護者を「保護者会」として組織。保護者が協力して、給食を実施する体制を作りました。



保護者会 / 定期ミーティング

給食準備ミーティングや、調理ボランティアは、保護者間の親睦を深める場に。「小学校卒業まで学べる地域をつくりたい」という保護者の想いが届き、教育省が2014年に校舎を増設。2014年度は6年生まで開講され、火山被災後、初の卒業生11人が誕生しました！



保護者会 / 定期ミーティング

地域の未来は、住民自身が考え、決めていきます。アクセスは話し合いをサポートし、意見がまとまるよう支援します。人々が村議会やNGO、行政などと協力して課題を解決していけるようになることをめざします。

貧しい生活の中で、十分な教育を受けることができずきた人々にとって、事業を運営したり、組織として話し合いでものごとを決めたり問題を解決したりするのは簡単なことではありません。そんな中、アクセスでは保護者会や生産者団体といった、プログラム参加者によるグループを組織し、日々の活動を通じて、メンバーが事業運営に関するさまざまなスキルを身につけられるようにしているのです。

アクセス・スタッフの仕事は、そうした事業運営をまずは自らやることで手本を示し、その後、徐々にその仕事を参加者に引き継いでいくこと、そして組織運営に関するアドバイスをしたり、相談にのったりすることです。また、子どもや女性の権利についてのセミナーを行ったり、貧困が生まれる構造についての学習会を行うなどして、住民の意識の向上にも取り組んでいます。

## コミュニティ・エンパワメント～地域の問題にとりくむ組織づくり

現在、アクセスが行っているすべてのプログラムのもとで、住民のグループを組織すること、そしてそれぞれのプログラムを組織のメンバー自身が運営できるようになることをめざしています。いずれは、それぞれの組織の代表者によって「住民協議会」がつけられ、地域の多くの人たちが共通して抱えている問題の解決にとりくめるような存在になっていけば、と考えています。

## 住民協議会の建設と役割

### 将来的には…

#### アクセス

アクセスの役割は、住民協議会が取り組む課題について、活動の参考になる情報・人脈などあらゆるリソースを提供したり、活動の相談にのったりすることです。

### 【ペレーズ地区住民協議会】

#### マパヤパ生産者共同組合

#### 青年会

#### 保護者会

#### 奨学生会

#### マイクロファイナンス・グループ

#### 土地問題

#### 環境問題

#### 女性の権利

#### 子どもの権利

農村地区の貧困の原因の1つは、大土地所有制ですが、一部の農民が不満を口にしたいくらいでは大土地所有制をなくすことはできません。でも、土地なし農民が協力し、一斉に声を挙げれば、状況を改善できる可能性はあります。

子どもの権利についても、尊重されるべき権利について知る人を増やし、多くの子どもが団結して権利を主張すれば、権利侵害は減っていきます。

「住民協議会」は、地域が抱える問題について提起し、どうすれば問題が解決できるのかを考え、議論し、行動にうつしていくための場です。

# 役員・スタッフ・ボランティア

## アクセス・フィリピン

### フィリピン理事会

理事長 カルメンシータ・カラグタグ (メンチ)  
理事 ロサリナ・クラマー (リサ)  
理事 アイダ・カルロス  
理事 石川 雅国  
理事 カルメリータ・モランテ

### フィリピン運営委員会

ロサリナ・クラマー(リサ)  
石川雅国

### フィリピン事務局



(左から)  
ダニーロ・ドティリヨス 事務所管理人  
ジェネット・アルバロ アシスタント・コーディネーター  
アイリーン・ブラヤグ 幼稚園教員



(左から)  
クリスター・ジョン・ララ(ジェリック) 都市貧困地区担当  
ロサリナ・クラマー (リサ) 事務局長  
マリエル・ヴィリヤヌエヴァ(マース) 教育啓発担当  
石川 雅国 総務経理/ピナツボ担当  
ライアン・サルバドル マイクロファイナンス担当

### ピナツボ地区

### 都市貧困地区



バヤタス地区 (写真左より)  
テレサ・オングダ 教員補助  
アリシア・グティエレス(アリス) 幼稚園教員  
マリテス・ベリノ(テス) 幼稚園管理人

### ペレーズ地区



(写真左より) アドニス・パハリヨ マイクロファイナンス担当  
リザ・メルカド 奨学金担当  
ジェンナ・リン・オスタガ 奨学金担当  
芦名 里礼 インターン  
アビケル・エスカミリヤス(アビー) フェアトレード担当  
アレン・アルゾラ コーディネーター

the Philippines

(2015年6月末時点)

## アクセス日本

### 日本理事会

理事長	新開 純也	元株式会社タカラブネ社長	理事	千田 智之	株式会社ソフトパス代表取締役
常務理事	森脇 祐一	事務局員	理事	田中 雅規	株式会社高島屋社員
理事	江口 慶明	関西大学生協同組合専務理事	理事	塚本 誠一	弁護士
理事	河西 実	NPO 法人フェア・プラス事務局長	理事	中本 式子	元生活クラブ京都エルコープ理事長
理事	片岡 卓三	医師	理事	野田 沙良	事務局長
理事	菊池 光造	京都大学名誉教授	理事	廣瀬 昌代	同志社大学大学院生
理事	崎山 政毅	立命館大学教授	監事	渡邊 功	公認会計士
理事	杉山 遼	特別支援学校 教員			

### 日本事務局

(左から)

事務局員	森脇 祐一
事務局長	野田 沙良
事務局員	峠 千尋
インターン	松井 花咲音

(2016年7月時点)



## 事業部・チーム・支部・委員会 ボランティア

#### 【フェアトレード事業部 (FT 事業部)】

田中雅規、廣瀬昌代、十一智教、久保七彩、藪内梨果、山本真由、水口智博、中島綾香、橋詰佳穂、浅賀詩織、馬場真貴子

#### 【開発教育チーム (GET)】

新谷田奏子、三戸部香帆、南波華奈、池内亮太、仲孝昌、三谷昂輝、草野早紀、内田拓巳、白柳飛翔

#### 【スモークーマウンテン支援チーム (FIT)】

水城美冠、三戸部香帆、杉山遼、谷和之、野村光生、氏田楓、松岡春香、富田沙樹、吉川舞、有馬千智、伊藤恭平、高橋いづみ、野越玲奈、岸田千加子、赤井美賀子、島崎史織、岡崎沙也香、駒井真帆、藪内梨果、中川みのり、吉永綾子、美波朋大

#### 【ピナツボ支援チーム (PEACE)】

浅堀きりり、山下凧、池内亮太、橋本琳太郎

#### 【東京支部】

阿部仁美、物延玄朗、佐藤真彦、石塚葉月、木村諒子、林智朗、川井友紀子、木澤瑞季、森井英樹

#### 【カフェイベント実行委員会】

今井夏帆、岡室佑佳、武藤望未、福山ともみ

#### 【翻訳ボランティアチーム】

平井孝子、榎本桂子、岡崎真也、木村龍一、中谷早織、新谷田奏子、天野空、森山結愛

(2016年5月末時点)

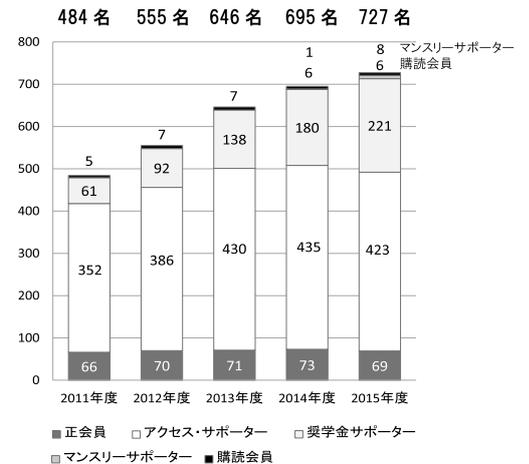
# Japan

# 会員・寄付者（2015年度）

会員サポーター数 全 727 名  
 寄付協力(現金) 個人 50 名、グループ・学校・法人等 17 件  
 書き損じハガキ 個人・グループ・法人等 60 件／3,788 枚  
 ココロ便 個人・法人等 82 件／185,482 円分  
 (本・CD・DVD・ゲームのご寄付)  
 その他物資 個人・学校・法人等 29 件  
 (文房具、衣類、未使用のテレホンカード・金券・切手など)

アクセスの活動は、会員・サポーター・支援者の皆さまお一人お一人のご理解とご協力のもとに成り立っております。2015 年度にいただいたご支援・ご協力に、あらためてお礼申し上げます。

※各年度末時点の会員数



## ご支援いただいた助成団体（2014年度以降）

### 公益信託 今井記念海外協力基金「国際協力NGO助成」

奨学金プログラムの奨学生会生・保護者会のエンパワメントと村議会の能力強化を通じた、子どもの権利と福祉の向上事業（2015 年度）

### 独立行政法人国際協力機構（JICA）

#### 「NGO 組織強化のための国内アドバイザー派遣」

会員拡大に向けた業務プロセスの改善と新たな施策の策定（2015 年度）

### 特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク

NGO組織強化支援事業(2013 年度、2014 年度、2015 年度)

### 関西 NGO 協議会・真如苑共催

#### 「関西地域NGO助成プログラム」

国際協力きっかけづくりカフェイベント(2013 年～2014 年)

### 一般財団法人まちづくり地球市民財団

フィリピン貧困地区におけるフェアトレードプログラム強化事業（2015 年～2016 年）

### 公益財団法人大阪コミュニティ財団「がっこう基金」

ピナツボ火山土石流被災地での就学前教育・社会教育事業(2014 年度)

### 独立行政法人国際協力機構（JICA）

#### 「世界の人々のための JICA 基金」(委託事業)

フィリピンの貧しい農漁村におけるマイクロクレジット事業の再建（2015 年～2016 年）

### 日本化学産業労働組合連合会「スマイル by JEC」

ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援事業（2014 年度、2015 年度）

### 公益財団法人庭野平和財団「活動助成」

フィリピン・ピナツボ火山土石流被災地における子どもに優しいコミュニティ建設事業（2015 年～2016 年）

### 日本労働組合総連合会(連合)「愛のキャンパ」

ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援事業(2014 年度、2015 年度)



がっこう基金からの助成金と、皆さまからの寄付により建設した、ピナツボ地区の幼稚園・社会教育センター



夢屋基金、日本化学産業労働組合連合会、日本労働組合連合会から助成いただいたバヤタス地区の幼稚園



今井記念海外協力基金から助成いただいた、子どもの権利セミナーの様子

## ご協力いただいた企業・学校・団体等（2015年度）

京都市立修学院中学校	フィリピンの子どもたちの小学校就学に対する支援(2002年～)
近畿労働金庫	フィリピンの子どもたちに教育と給食を提供する「心のそしな」プロジェクト(2010年～)
ブックオフコーポレーション株式会社	中古品の寄付によりフィリピンを支援する「ココロ便」プロジェクト(2013年～)
株式会社ドロキア・オラシタ	フィリピンの子どもたちへの給食と文房具を提供、小学校就学を支援(2014年～)
gooddo 株式会社	NPOを無料で簡単に支援できる！gooddo(2015年～)

スリースター京都、薬院オーガニック株式会社、株式会社テーブルクロス、毎日新聞愛の手チャリティ事務局、喫茶うずら、中野章吾商店、ゲストハウスたむら、有限会社ウエストコースト、鴨東教会、NGO 自敬寺、法蔵寺、西正寺、浄土真宗本願寺派北豊教区門司組、豊中市立第八中学校、京都市立伏見工業高等学校、高松市立林小学校、木津川市立木津第二中学校、立命館中学校・高等学校、コリア国際学園、ランチフォースファウンデーション、京都市南浜児童館、桜井市国際交流協会、Next Peace Project 実行委員会、神戸ゾンタクラブ、国際ソロプチミスト稲城、京都西北ローターアクトクラブ、龍谷大学校友会阪神支部

(順不同)

## 受賞歴

### 公益財団法人かめのり財団「第5回かめのり賞」

「日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献」(2011年)

### 社会福祉法人京都市社会福祉協議会表彰

「福祉のまちづくりに貢献」(2013年)

### 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター 第8回パートナーシップ大賞グランプリ

「NPOと企業の優れたパートナーシップ事例を選出し表彰する」(2011年)



## 加盟団体・ネットワーク等（2015年度）

特定非営利活動法人関西NGO協議会(正会員/副代表理事)、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(正会員)  
日比NGOネットワーク(正会員)、京都府国際交流団体情報ネットワーク「kokoka 国際交流団体ねっと」(会員)

### ブックオフ！ 預金を通じて、子どもたちを応援！「心のそしな」プロジェクト

アクセスでは近畿ろうきんと連携して、ピナツボ地区とペレーズ地区の子どもたちに教育と給食を提供する「心のそしな」プロジェクトを2010年春にスタートしました。これは、近畿ろうきんに定期預金などをしてくださった方への粗品を一部なくし、粗品分の費用を子どもたちへの支援にあてるというものです。

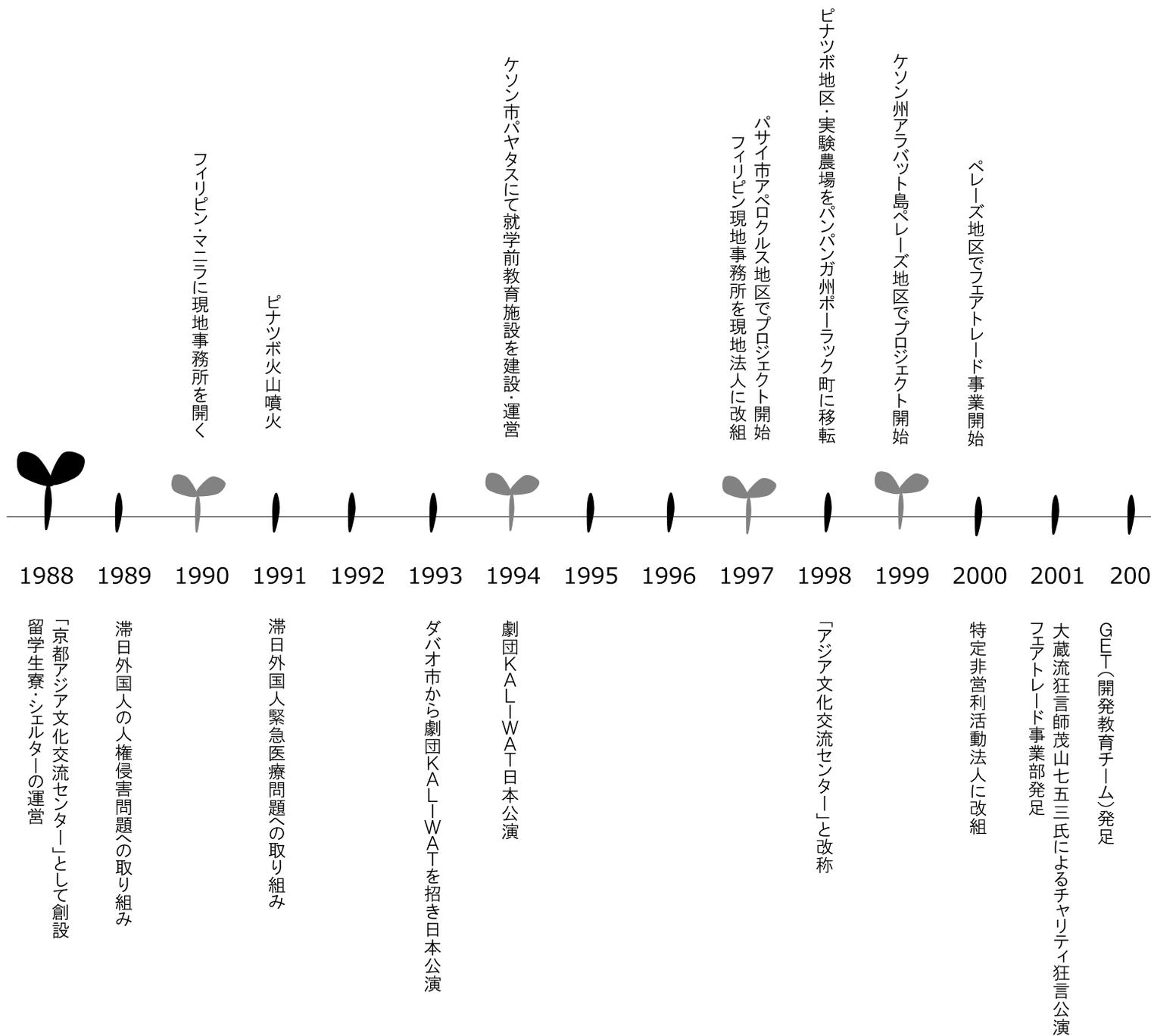
この取り組みは、企業とNPOの協働事業を表彰する「パートナーシップ大賞」の2011年度グランプリにも選ばれ、新聞・ラジオ・雑誌等でも紹介されました

【問い合わせ】近畿労働金庫 本店営業部 TEL 06-6449-1211



# アクセスのあゆみ

## 1988 - 2016



## 十年後の未来を描く年に

ピナツポ地区で子どもに優しいコミュニティづくり事業開始  
ピナツポ地区で奨学金プログラム開始  
ピナツポ地区に幼稚園・社会教育センター建設  
立ち返りに伴い、スモークーマウンテン地区事業終了

## 設立25周年

ケソン市パヤタスにて、就学前教育施設の運営を再開

ペレーズ地区でマイクロファイナンス事業開始  
ピナツポ地区でカラバオ(水牛)供給プログラム開始

ペレーズ地区で奨学金プログラム開始  
ピナツポ地区で小学校校舎増築  
ピナツポ地区で小学校校舎・井戸を建設

ピナツポ地区で就学前教育施設の運営開始

スモークーマウンテン地区で青年会設立

マニラ市トンド地区スモークーマウンテンで事業開始

ペレーズ青年会設立

## 認定NPO法人格取得 十年後の未来を描く年に

社会人翻訳チーム、カフェイベント実行委員会発足

## 設立25周年

ACTチームとFACEチームが合併し、FACTチームに

「パートナーシップ大賞」グランプリ受賞

(特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター)  
第五回かめのり賞 受賞(公益財団法人かめのり財団)

PEACE(ピナツポ支援チーム)発足

LOLA(ロラ支援チーム)発足

F-T(スモークーマウンテン支援チーム)発足

「アクセス・共生社会をめざす地球市民の会」と改称

ペレーズ支援チーム発足

ACT(アペロクルス支援チーム)発足

BYP(S) (ペレーズ家庭養豚奨学プログラム支援チーム)発足

# 9 8 8 - 2 0 1 6



市民のネットワークが貧困のない社会を創る  
特定非営利活動法人 アクセスー共生社会をめざす地球市民の会  
612-0029 京都市伏見区深草西浦町4-78 村井第一ビル2F 7号室  
TEL/FAX 075-643-7232 E-MAIL [acce@sannet.ne.jp](mailto:acce@sannet.ne.jp)  
<http://www.page.sannet.ne.jp/acce/>

アクセス NGO

検索